

波と鳥

第 5 号 1984



室蘭市医師親交会誌

波ノ鳥

第 5 号 1984

室蘭市医師親交会誌

目次

表紙 トツカリシヨ 加藤 治良
 カット 竹内 隆一 吉井 正仁

記念アルバム

しのぶ草

やはり子供は親の背をみていた 神島 茂夫
 故峰本正一先生のこと 大岩 昌生

医史

斎藤専蔵の事

上田 智夫

煙草考

奇書「えん録」

中村 秀

主

張

心拍こそ生の証

高橋 陽夫

旧友通信

松原 初男

わが青春

弘前の三年

鴨井 清一

座談会

われら家族のごとく

皆川 英貞 深瀬 政俊 堀尾 行彦
 開田 吉広 山本 俊一 他編集委員

21

20

19

12

10

6

3

1

あんらくいす

27

阿部新一先生と私..... 柘植 重夫

楽其生保其寿..... 大吉 清

自殺か 他殺か..... 湊 武雄

皇居参観記..... 大久保洋平

おたまじやくしの生いたち..... 安斎 哲郎

全道ドクターズゴルフ大会に出場して..... 斎藤 成樹

ゴルフ談議

私のパッティング遍歴(Ⅲ)..... 久安 正道..... 36

ーグループ紹介ー

室蘭市医師会ゴルフクラブの歩み..... 遠藤 秀雄..... 39

親交会旅行記 (昭和59年)..... ユーホーサルーンカー 野幌森林公園..... 斎藤 修弥..... 41

札幌ヒール園ーホテルミミカド 小樽博覧会ー北一ガラス 帰路..... 黒光 康夫

小樽博覧会見聞記..... 大岩 昌生

あどけない話..... 三村 博通

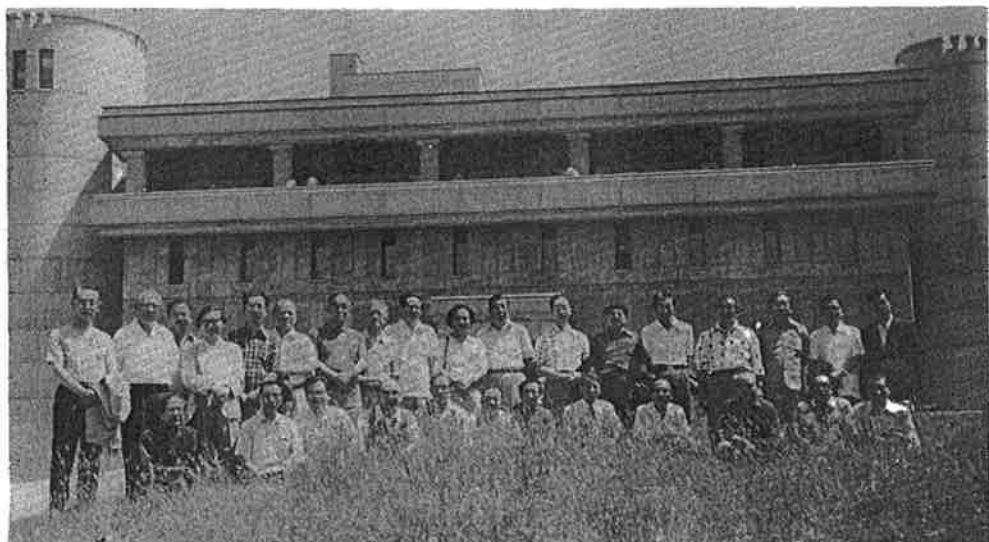
札幌の夜 触れあいと語らいを求めて..... 皆川 英貞

親交旅情..... 村井 乙..... 47

会員異動 編集後記

..... 47

親交会記念アルバム



昭和 52. 7. 24 池田町 ワイン城



昭和 53. 7. 23 余市町 あゆ見荘



昭和 54.6.10

函館 聖ハリストス教会



昭和 55.6.8 札幌 藻岩山頂



しのぶ草



やはり子供は親の背をみていた

神 島 茂 夫



父は昭和12年、34才の時に田中好治氏の跡を引き継いで、室蘭市大町に開業したのだから、38才の男盛りの時代に大東亜戦争に遭遇した事になる。いつの頃からか襟なしの白ワイシャツに黒ズボン、サスペンダーに割烹着ス

タイルの白衣を着て、家族を皆疎開させ、一人で奮闘していた記憶が蘇る。当時の往診は自慢のダットサンで出かけたが、船に弱い父は船舶への往診はかなりこたえた様であった。又当時の重患はリヤカーで運ばれて来た人も多く、大腿骨折などもエーテルクロロホルムの麻酔で3時間位かかってやっていたのを見た事も

ある。そんな毎日が土、日もなく、昼夜を問わずに続いていた様に思う。

父は病院へ出る時は必ず服を着変えて（実際は下着だけで生活する事が多かった様に思うが）診察着を着て出たし、帰える手のみならず、顔から禿げ頭迄必ず洗う癖があった。疾病の種類の相異や、抗生物質等もなかった時代の為か、几張面なのか。

父の親兄弟については祖父は医者と言う以外はあまり話してくれなかったが、戦後甲府市から近所へ転り住んだ父の長兄は、俺は武士の出だと口癖に言い、弟は絵が達者でかなり道楽もしたと酔う毎に教えてくれた。しかし父は私は平民だし、金は使えばなくなるが、学問はそれを生むものだとも言い、世の中を広く知る事は幸せなのだと言った。言った通り働いたが子供達にはさっぱり美田は残さずに去ってしまった。

私が夜、宿題をやっていると遅く迄、見張り（？）をしその間の空腹に堪えかねて私の弁当のおかずを食ってしまい、翌朝、母の大声が聞こえたりもした。父は肥えた腹、赤ら顔から磊落で酒好きの様に言われるが、宴会から帰るとよく吐いていたものだった。

戦後は税制度の変化や皆保険制度等の時代の変化に、どちらかと言えば、真面目な父は苦戦していた様子を見て育って来た様に思う。

昭和30年代には、連合PTA会長を務めたり、音楽協会を育て

たり町会長等を務め、晩年には室蘭ライオンズ・クラブの創設、発展に意欲を燃していた。

私が大学院在学中に、父は軽い脳出血の発作にみまわれた。そんな事があって、私は室蘭に呼び戻されたのだが、丁度29才の時であった。今私達兄弟5人は、夫々医者として或は医者の妻として独立しているが、激動の時代に良き家庭環境の中に過す事が出来た事を非常に幸せと思っている。最後に、母の弔辞をのせて責を注ぎたいと思う。

思えば、亡夫神島辰雄は、他界して早や10年の才月が過ぎました。山梨県の笹子トンネル工事の頃の千葉医大出身で、甲府市立病院長の父、神島銈太郎の三男として生れ、北大医学部の四期生として卒業し、外科で医学博士となりました。学生時代にはマシドリンを好み、北大寮歌集には彼の作曲がのっています。札幌北辰病院に勤務するうちに、従兄弟の室蘭田中病院、田中好治氏病い篤しの報をうけ、要請されて病院を継承する事になり、二児の父とは言え、34才の若さで引き継ぎ、従業員の監督も大変な事だったと思いますが、当時第一回募集の看護婦が今も、我家の宝として奉職してしてくれる事は力強いことです。三男二女の子福者で、せわしい中を子供の教育方針の意見を聞きに、登別の知里真志保の許に伺ったり、子供達と魚つりや、地球岬にハイキングをしたり、家族総出で登別温泉や定山溪温泉によく行ったものでした。

学校の校医、PTA会長などをしたり、ライオンズ・クラブを室蘭に迎えて初代会長となり、ガバナーとなりダラスの認証式に出て、米国や欧州を見学し、又東京での世界大会に出席、北海道百年式典には、両陛下を千歳にお迎えし、円山グラウンドでマスゲームを共に参観する光栄に浴しました。

又旅行が一番の楽しみの様でよく旅して歩きました。謡を好み

京都の薪能などを写真に撮ったり、テープに収めたりして楽しみにしていました。五人の子供も夫々に家庭を持つ様になり、長男の家の裏に家を建て、庭をながめ70才の人生を過しました。静かな中に、闘志を秘めた努力家だったと思います。そして、昭和49年3月10日静かに旅立ちました。

昭和59年・秋記。

故峰本正一先生のこと

大 岩 昌 生

今年三月頃、北海道医報に峰本先生の計報が載っており突然の事で驚きました。心からお悔み申し上げる次第です。

先生と私との出合いは私が驚別で小さな診療所を開設して間もなくの頃です。昭和二十五年から二十七年頃の事と思います。診療室一室、住宅一室の仮住いで、まだ現在地に移る前でした。突然オートバイを運転して来訪され、開業の現状を見に来たとのことでした。この様な状態の時でしたから、私も面喰って何をお話したかよく憶えて居りませんが何の参考にもならなかったと思います。先生は仲々意欲に溢れた抱負を語って、此の度、壮瞥町久保内で開業する積りであると話されていたのを憶えています。其の後は医師会が別なものですから、お会いする機会もなく過して居りましたところ、昭和三十五年頃、開業をやめて室蘭通信診療所に赴任されました。

私が親交会の役員を命ぜられた頃には先生はすでに会計担当として活躍されて居り会務で屢々お会いするようになりました。

親交会の大事な仕事は会計で、先生は殆んどお一人で熱心に切り盛りされているのを感じておりました。

昭和五十二年、原田先生が医師会長に就任し親交会会長を兼ることになりましたが、各役員は永年留年されているので、こゝろで一部若い先生方に入ってもらってはと考えられて私にも相談がありました。各年度の会計も決算書を見返しただけでは経過の詳細が判らないので、此の際、外部監査を受けて一区切りつけようとの事でした。会長の考えでは、永年峰本先生が殆んどお一人で一億円近い会計を担当され、預金のルートも多岐にわたり年々誤差が膨れて苦心しているのではないかと心配があつたようです。昭和五十四年六月、公認会計士の監査を受けましたが、大変有利な預金の方法を研究され、刻々変化する利率の計算も実に正確で全般に亘り非の打ち処のない経理であるとの結果が出まして会長も大変安心し、その熱心さと非凡な才能に一驚したわけです。

昭和五十六年、通信診療所長を退任され、札幌のご子息と一緒に暮しになるとの事で退会移転なさることになりましたが、転出に際し、医師会、親交会の有志が集り、一夜、輪西ニュージャパンで送別会を開きましたが先生は大変元気で酒も充分に飲み、おそく迄歓談したのを憶えて居ります。

こちらに居られた当時、胃の調子が悪くて旭川医大病院で手術を受けたのを知っておりましたが、其の後症状もなく経過していたところ、昨年五月に健康診断で肺癌が発見され肝転移も発生して最悪の状態となり、今年一月二十九日、北大病院で逝去されました。享年七十才でありました。

ここで先生のご経歴にふれてみますと、出身地は現在の深川市一已町で、戦前に近くの病院の事務に携わっていた事があつたようですが、その後、志を立てて満洲の医学校に進まれたのだそうです。既に結婚されていて一子をもうけられて居りましたが、家

族を内地に残しての遊学は戦時中と云う困難な社会状況の中で、大変な辛苦があつた事と思われます。戦後引き揚げて上砂川町の三井鉱業所病院に勤務された後、昭和二十八年、壮瞥町で開業されるに当って私の所へ見えられ初めての出会いとなった訳です。事務的な仕事に携っておられた事が後の親交会経理に抜群の手腕を発揮する礎となったものと了解しました。

現在、三人のお子さんのうち、ご長男は内科医として旭川厚生病院に勤務、他のお二人は本州にあって円満な家庭を営まれており、何の心配もなく、奥様は只今お一人で川沿町のお宅で故人の霊を守って居られます。南区の藻南橋の近くで定山溪道路から少し入った所ですので、お通りの折、お立寄り下されば故人奥様も大変喜ばれると思います。

先生のご冥福を祈り、生前の想い出と其の後のご消息を綴りました。

峰本先生の送別会席上で
昭和56.4.10 (ニュージャパン)



ご遺族 和枝様
ご住所 札幌市南区川沿十三条一丁目5-22

電話 57・8830
(S・59・8・6記)

齋藤専蔵の事

上田 智夫



親交会の親睦雑誌に固苦しい医史の話を持ち出すのは如何かと思われるのだが、この部門しか話題を持たないのでお許しいただきたい。

齋藤専蔵と言っても馴染の薄い方が大部分であらうが、市立室蘭病院の第三代の院長である。市立室蘭病院は、最初は新道建築仮病院として明治五年三月に崎守町（旧名モロラン）に建設され、札幌本道の工事が進むにつれて、明治六年六月にトッカリモイ（西小路の坂を下り切った所）に移った。開拓使事業報告などによっても、この時点を室蘭病院の開設日時と設定しているよう
で、仮病院に出張して来た医員達は室蘭病院の職員とはみていな

い。蛇足ながら、知里眞志保さんのアイヌ語地名解では、トッカリモイはチカの多い入江であり、現在でも港内のチカ釣りのメッカであるのも面白い。

室蘭病院の初代院長は明治六年以来会津の医師赤城信一であり明治十九年まで院長をつとめた。二代院長は島田操と言ひ、室蘭港の総代人達が札幌病院に頼んで派遣して貰ったのだが、赤城と
もどもクリスチャンであつた事もあり、明治二十一年八月には港民の画策に破れて札幌に去っているが、雇継の契約をしてから僅かに四ヶ月にすぎない。その後任が三代院長齋藤専蔵なのである偶然な事に小学校時代の同期生に樋口昭七郎君（俳誌 直線主催者、俳号游魚）がおり彼の母が齋藤専蔵の四女サダであつた事から関心をいだいて調査していたこともあつて、多くの事がわかつてきた。

履歴書

山形県下羽前国西田川郡

鶴岡鍛冶町廿二番地

平民 齋藤専蔵

安政五年二月十五日生

一、明治七年一月ヨリ全十一年七月迄都合三年七ヶ月間山形県羽前国西田川郡大山村上本町十八番地開業医栗本節安へ隨身詔書以テ医学研究

一、明治十一年九月ヨリ全十四年二月迄都合二年六ヶ月間東京府下本郷元町壱丁目壱番地済生学舎ニ於テ詔書ヲ以テ医学研究

一、明治十四年四月東京府ニ於テ御成規之医術開業御試験中疾病ニ罹リ内外科実地御試験之当日欠席

一、明治十四年七月東京府ニ於テ医術開業御試験ヲ受ケ同年九月落第之指令ヲ拜受

一、明治十四年十月四日開拓使札幌病院々雇拝命

一、明治十五年四月八日札幌県雇札幌病院副当直医拝命

一、明治十五年六月九日札幌県準判任御用掛拝命

一、明治十四年十月ヨリ本日迄公務之余暇札幌病院医員荒川文碩ニ随ヒ医学七科ノ教授ヲ受ク

右之通相違無御座候也

明治十五年六月廿八日

右 斎藤専藏 印

これは、医術開業願を出した時の自筆の履歴書であり、二枚の教授書が添付されている

教授書

山形県平民

斎藤 専藏

右者明治十一年九月ヨリ当済生学舎ニ於テ理学化学解剖生理学薬物学内科学外科学教授致候也

右之通相違無之候也

東京府下本郷元町二丁目

済生学舎長

明治十四年三月廿五日

長谷川 泰 印

教授書

山形県平民

斎藤 専藏

右者明治十四年十月ヨリ理学化学解剖学生理学薬剂学内科学外科学教授候也

右之通相違無之候也

札幌病院医員

明治十五年六月廿七日

荒川 文碩

北海道庁履歴書などによってみると、斎藤専藏は斎藤春衛門の長男として、安政五年（一八五八）二月十五日に山形県西田川郡鶴岡最上町に生まれた。明治七年、十六才の時から開業医栗本節安へ隨身とあるので、恐らく内弟子修業と言うことであろう。明治十一年には上京、長谷川泰の済生学舎に入學している。二十才であった。

長谷川泰 はせがわたい（一八四二—一九一三）江戸末から明治の医学者。越後国（新潟県）長岡の人。江戸に出て坪井芳洲に西洋医学を学び、のちさらに佐倉順天堂で佐藤尚中に西洋医学を学ぶ。一八六九年（明治二）大学東校開設に際し少助教兼中寮長に任ぜられ、その校務に参画。七四年東京府病院長となり、七六年東京小石川春日町に済生学舎を設立して医学生の育成にあたる。七八年内務省御用となり、長与専斎を助けて衛生行政の根幹を確立した。八七年国政医学会を創立し、九〇年には日本最初の総選挙に当選。九八年内務省衛生局長。一九〇二年に専門学校令が公布されると、済生学舎を大学にしようとしたが、許可されなかったので急にこれを閉校し、物議をかもした。（大鳥三郎）

余談ながら、済生学舎在校生達が、日本医学校——のちの日本医科大学を創立し、更に東京医学校を作ったグループが、東京医大を創設してゆく訳である。

本題に戻って、北海道簿書から専藏の履歴を追って行くと、

明治十四年十月一日 開拓使札幌病院雇月給十二円

明治十五年二月九日 廃使置県 判任官以下ハ其儘事務取扱

明治十五年四月八日 月給十五円 札幌病院係

全年五月十五日 札幌病院副当直医

全年六月九日 御用掛准判任官月俸金十五円

全年八月七日 月俸金二十円

明治十五年医術開業願を申し出た時には二十四才で、札幌病院勤務であつた。厚生省の「医制百年史」に、開業医許可の経過が述べられている。

既に述べたように、明治八年二月には医制の趣旨に基づいて新規開業医師に対する開業試験の実施方についてまず三府に達しついで翌九年一月にこれを逐次全国に及ぼすこととして各県に對してその要領を達したのであるが、明治十一年には早くも殆んど全国で開業試験が実施されるに至つた。しかしながら、明治九年の達は開業試験の概則を定めているにすぎず、各地によりまちまちであつたので、その弊を改めるため、明治十二年医師試験規則（明一二・二・二四内布達甲三）を制定し、同規則により開業試験はその面目を一新した。ここで注目すべき点は官立大学及び欧米大学の卒業生は無試験で開業し得るとしたことであり、これに類する無試験免許の制度は後述の明治十六年の医師免許規則、さらに明治三十九年の医師法、歯科医師法にも引継がれた（後述）

医師開業試験ヲセシム

明治九年一月十二日

内務省達乙第五号 各県

医師開業之儀別紙之通試験法相定各管内医師學術之現狀ニ抛リテ緩急ヲ度リ施行可致候条此旨相達候事

追テ施行之見込相立候向ハ時日取極予メ可申出ス

（別紙）

一、自今新ニ医術開業セント欲スルモノ左ノ試験ヲ遂テ免狀ヲ授クヘシ

但シ從來開業ノ医師ハ試験ヲ要セス 故ニ県庁ニ於テハ新ニ免狀ヲ受ケ開業スルモノト困雜セサル様処分スヘシ、尤從來開業ノ医師タリトモ志願ノモノハ試験ヲ遂テ免狀ヲ授

クヘシ

試験科目

第一物理学化学大意

第二解剖学大意

第三生理学大意

第四病理学大意

第五藥劑学大意

第六内外科大意

一、産科眼科口中科等専ラ一科ヲ修ムルモノハ、其局部ノ解剖生理ノ大意及手術ヲ檢シテ免狀ヲ授クヘシ

一、試験ハ分管内ノ便宜ニ隨ヒ県庁或ハ病院に於テシ、其成績ヲ内務省ニ具狀シ免狀ヲ受ケ本人ニ交付スヘシ

医術ヲ以テ奉職スル者ハ試験ヲ須ヒス免狀交付

明治十年八月十六日

内務省達第七十六号

昨明治九年当省乙第五号ヲ以医師試験之儀相達從來開業之モノハ試験ヲ要セス地方限リ鑑札等ヲ与ヘ新旧ヲ区分シ以テ医術改新之基礎相立候処、維新以來該術ヲ以諸官庁及地方公立病院ニ奉職從事シ主トシテ医療若クハ教授ノ任ニ当リタル者ハ志願ニヨリ試験ヲ不須直ニ免狀交付候条、左ノ簡条ニ照觀シ本人之願書及履歷書ニ管庁ノ添書ヲ附シ可申出此旨相候達事

但自今官立医学校ニ於テ卒業証書ヲ得シモノ外ハ總テ成規之試験ヲ逐候儀ト可相心得事

一、内務省警視病院医員及旧警視庁医員

但藥局專任ノモノハ此例ニアラス、以下之ニ倣ヘ

一、陸軍省軍医副及ヒ軍医試補以上

一、海軍省軍医副以上

一、文部省及旧大学東校少得業生及ヒ医学教官下医当直医以上

並同省直轄諸学校医員、皇漢医道掛、種痘館掛ハ之ヲ除ク

一、司法省及旧彈正台医員

一、宮内省六等侍医以上及旧少典医旧権少侍医以上

一、開拓使病院医員

一、府県病院及地方公立病員当直医以上

これらの条文によって、官立医学校卒業医試験合格医、限地開業医、従来履歴医等に区分され、初代院長赤城信一は開拓使病院医員の履歴を認められて、無試験で免状を下附されたが、斎藤專藏はそうはいかなかった訳である。

明治十五年の受験者は、斎藤專藏と小林英太の二名で、内務省からの問題で、札幌病院の馬島院長、永井四等属、一柳九等属が試験官となって十月に札幌病院で行なわれた。斎藤專藏の試験問題は、

理学 一、音響の速力

二、驗液器、液量計の構造及び応用

化学 一、大氣の成分及びその混有物

二、有機性化合物に属する重要な窒素化合物及びその種類の別

解剖 一、三叉神経の起始枝別及び分布

二、腎臓の位置形状及び造構

生理 一、動脈静脈及び毛細脈の血液循環機

二、胸腔の造構呼吸筋の作用及び呼吸を司る神経

病理 一、上皮肥大の種類原因及び現症

二、腸チフスに由り淋巴系統に発するの変化

薬剤 一、纈草酸亜銀の健体作用医治作用頓服の量一日の服量

二、甘汞の健体作用医治作用頓服の量一日服量外用の法

内科 一、神経痛の原因病理鑑別及び療法

二、肝臓硬結症の原因解屍所見症候予後及び療法

外科 一、上膊骨折の種類原因徴候及び療法

二、截断術の類別手術式適症及び禁忌

以上の試験に合格して、めでたく医術開業免状を受けた。（署名は専三）

御受書

内外科医術開業免状御下附被成下正ニ拝受仕候也

山形県平民

明治十六年二月十四日

斎藤 専三

内務卿山田顯義殿

このあと、札幌勤務がつづく。

明治十五年十二月廿二日 職務格別勉勵候ニ付慰勞金五円下賜

（註 十六年、十七年に各五円、十九年には十円が同趣旨に

下附されている）

明治十六年二月十五日 昨十五年八月以降管内各所虎列羅病予

防に従事格別勉勵候ニ付為慰勞金五円下賜

全年八月六日

月俸金二十五円

全年全月全日

札幌病院当直医

明治十七年十月十八日

御用掛、准判任官月俸金三十円

監獄

本署詰申付

明治十八年十二月十四日

監獄医申付 月俸金三十五円

明治廿年一月廿八日

北海道庁監獄医 紋判任官五等 札幌監獄署詰

明治廿一年七月廿八日

依願免本官

監獄医については、「北海道医師会史」に特に一章を設けて詳述されているので御覽いただきたい。

明治二十一年に島田操の後任として室蘭病院長に赴任したが、当時の業績についてはわかっていない。しかしながら、当時の室蘭は明治二十年の屯田兵入植、室蘭、岩見沢間鉄道の決定（完成

明治二十五年）などもあって活況を呈して来ていた。このなかで専蔵は明治二十四年四月に室蘭病院を辞任し、幕西町に私立病院を開院し、のちに札幌通り五十五番地（現在住友生命で、近江家具店の隣り）に移転開業している。この場所は佐藤雄三先生の医院のあった場所で、斎藤医院―佐藤富太郎医院（佐藤雄三先生の長兄。斎藤専蔵医院に一時勤務、鶴川の土地改良事業に取り組み大正十年頃から佐藤農場を開設、戦後病院を雄三先生に譲り鶴川に引退）―佐藤雄三医院―住友生命となっている訳である。

明治三十九年八月から大正初年までは室蘭町会議員をつとめた当時栗林五朔の政敵であった佐々木市造派に属し、三羽がらすの一人として活躍したという。この為か「政治に熱中しすぎて、医師としては失敗した」との評もある。

しかし板沢庄五郎によると、「私が室蘭病院に赴任後程なく（註 明治四十一年）誰れ云ふとなく、病理の委しきは遠藤副院長（元製鋼所病院副院長にして、海軍中佐にて嘗て海軍軍医学校に教鞭を取りし人）。診断の甘きは板沢副院長。而して予後の適中は斎藤専蔵医師に（古き時代室蘭病院長を努め、後開業し嘗て室蘭外五郡医師会長たりしことありし人）若かずと評されたものであります」と書いてあるので、決して医師としての評価が低かった訳ではないと思われる。また五郡医師会長をつとめたところが現在では裏付ける資料を得ないでいる。

死亡の前後の状況が、米川虎吉の日記に残っている。

大正二年一月三日

回診の途次斎藤専蔵を問ふ。顔色憔悴病態頗る宜しからず。心臟病ありと云ふ。余り診せざりし。但細君は診察を乞ひ度面持見ゆるも、主人公は料理を賞味す故見会はし度と云ふ故なり。居る事半時間程にして辞去す。真に気の毒の感に堪へざりし。七月十六日

患家にて斎藤医師方の佐藤富太郎に会す。斎藤の命、両三日なるべし。

七月十九日

午後三時半斎藤専蔵より迎あり。田中医学士と診察。終りて二階にて佐藤医師と座談す。

八月一日

斎藤専蔵遂に起たず。終焉は午前八時なりといふ。以上から、大正二年八月一日に死亡したことがわかる。五十四才であった。生涯の詳細については、更に調査を進めたいと思つてはいるが、市立室蘭病院の三代院長について知って居る人はごく稀で、佐藤富太郎先生を知る方も少なくなり、若い世代では佐藤雄三先生をも知らない人がふえて来ている様なので、簡単に紹介した次第である。

煙草考

奇書「菖録」

中村 秀

煙草について最近その有害性が改めて大きく取り上げられ、胃癌・肺癌の恐れが強調され話題にのぼっている。つい先日モスエーデンで「肺癌死が間接喫煙のためであるとし労災が認定された」との新聞報道があり、愛煙家肩身狭しとも書かれていた。

先年私は乳幼児に關しての煙草の健康上の有害性について一文を記載したことがあるが、たまたま「煙草文化誌」なる一書を手して、煙草の歴史的考察の上から真に興味深いものがあつた。

蘭学の大家、盤水大槻玄沢先生の筆になる煙草の書「蔦録」は我国煙草文献中、白眉と称することが出来るであらう。「煙草文化誌」はこの「蔦録」の最も忠実なる解説書であると同時に、内外の煙草の文献の集大成とも考えられる書である。

「蔦録」が出版されたのは文化六年の春であるが、その起草は遠く六年前、即ち天明三年盤水翁二十七歳の折であり、成稿は寛政八年である。翁自身少時より喫煙を好み、江戸に五十年在住していたが、郷里、仙台の煙草を用いて名煙を食はず、とあるように煙草好きであった。然し「えん録」は単なる煙草好きの筆さざびになった書物ではなく、やむにやまれぬ啓蒙への苦心の成果と断しても過言ではない。

盤水翁は何故にこの書を起草したのか。広く大衆の間に煙草が愛翫されていた風習をみて、その医学的見地から煙草の実体を究明し、中毒解消の方法や如何にと、実体把握を企図しての研究であった。「えん録」の評判はすでに当時に於て輝しいものであったが、これに対して悪口めいたことを言っている唯一人の人物として司馬江漢があげられる。然し江漢も、煙草に関する研究は盤水が第一人者であらうとも述べている。

さて「えん録」「煙草文化誌」の内容の一端について述べる。タバコは一小島の名。今日の英領西印度諸島の南端にあるトバゴ島 (Tobago) を指している。この島に生えている野生植物そのものを「トバゴ」と呼ぶようになったが、天正・慶長の間、初めてその種子を長崎馬場に植えて栽培し我国に広くひろめられたのである。

煙草の効用については次のように述べられている。医薬としての効用は、食後の一服が時に胸先きをすっきりさせるのは喫煙者の経験する所であるが、これは、ニコチン毒の初期興奮作用、次で麻痺作用に因るものである。洋の東西を問わず、煙草は単なる

嗜好品というよりも、むしろ一つの立派な薬剤として医者の中に珍重された時代もあった。

煙草には毒があるが、時に変じて薬となる。例えば、急性ロイマチスを癒し、胸のつかえや痰のつかえを取り除き、脈の結滯を緩和すると煙草喫みが喜びそうなことばかりが書かれている。又煙草の毒は蛇の毒を消す。かくして食物の最も奇なるものなり。まこと古今東西、愛煙家にとっては食物であり然も最も不思議な食物でさえあった。

小児の慢性消化不良、卵巣囊腫、子宮筋腫の如き腹中の積塊（かたまり）もまた煙草で消散させ得るという。眼科では白内障、外科では切創に効ありとする。煙草の粉を血止め用いた素人療法を記憶しておられる方もあるであらう。煙草は医薬として正に茶の上にあり、嗜好品としては酒を凌ぐ絶妙不可思議な草木であると賞讃をおしまない。

次に煙草の禁忌についての記載がある。炎症・発熱の場合はいけない。中国に於て禁煙令を出したことがあるが、妄りに民家の財産を没収する事があり、晩年、帝之を悔い、始めて内外に諭告してその禁を弛む。言ふ、此の烟以て酒に代ふべくして而して人を損はずと——云々。アメリカの禁酒令を思わしむるものがある日本でも慶長・元和の頃に煙草をのむことを禁止させ、次に発売御法度になり、更に寛永・延宝年間には栽培が禁止された。然し人間の欲望はどうする事も出来ない。古人も言っている。「味の美なるにあらず、酔いて面白きにあらず、腹満つるに非ず、何の事なきにかくまで人の好めるは如何なる故とも知りがたし」と。この禁止令もやがて何時とはなしに効力を失ってしまった。

煙草は「貧報草」「貧乏草」とも呼ばれた。また「烟毒を解す」の項に、若し吸咽多服、眩暈、頭痛、悪心などの場合は味噌汁を飲むのがよい。本邦では知られていないが砂糖、檳榔を用いる

主張

がよい。焼味噌をなめてもよいとある。糖分は体内に吸収されてグリコーゲンの形で肝臓に貯えられる。このグリコーゲンの働きでニコチン毒が解毒されることは理解される。また、着物についた煙草の「やに」に対しては向井震軒が、熱い味噌汁に次いで昆布の味噌汁を推奨している。

煙草中毒予防十五訓が記載されているが省略する。

以上「煙草文化誌」を散見せしまさに記述した次第である。尚本書の著者は東大稲田内科宇賀田為吉博士である。

発行所は東峰書房。

心拍こそ生の証

高橋陽夫

今は昔一九二七年、私は医学部一年目の時に生理学小実験で、トノサマガエルから摘出した心臓をリンゲル氏液に入れて拍動の有様を観察したことを記憶している。摘出した心臓は脳がなくとも、相変らず拍動していることをその時初めて知ったのである。

心臓はその筋肉の収縮に必要な興奮を自分で作っている。すなわち心臓には自家発電ともいうべき自律性があって、脳とは無関係に自分で拍動しているのである。生命の附属物である五体から離れ、精神作用の根源である脳との連絡もすでに失われてしまったのであるが、蛙の心臓はリンゲル氏液の中で生き続けているのである。すなわち脳は精神の座であり、心臓は生命の座であると考えたことであつた。

体重が四キロにまで達することがあるといわれる無脳児は、子宮外の生存は望めないが、脳実質の全部を欠損しながらも、胎内では生きていたのである。この事実は、脳がなくても心臓が拍動していれば生命が維持され、心臓こそ生命の座であることを裏付けるものではなからうか。

脳が眠っても心臓は眠らない。呼吸を一時停止しても心臓は動いている。すなわち心臓が生命を維持するのであって、脳が生命を維持するのではないと考える。延髄に呼吸中枢があって、古くはここに生命の座を求め、ここを生命点と呼んでいるが、実際の生命点とは、心臓の自家発電装置ともいふべき洞結節あたりにあるのではなからうか。

一胎児の拍動は、日齢凡そ二十三日で開始されるという。この時期に個体の生命活動が始まるものと私は考える。臓器として最初に活動を開始するのも心臓であるし、脳が失われても、呼吸が止っても、一番最後まで活動を続けるのも心臓であって、心臓こそ生命の座であり、また生命の拠点でもあると考える。

太陽系において、天体の集団が太陽を中心に、一定の規則に従って調和を保ちながら、秩序整然と軌道に乗って運行しているが如く、小宇宙である人間では、天体ならぬ血球の集団が、軌道ならぬ血流に乗って、太陽ならぬ心臓を中心に、調和を保ちながら秩序整然と運行ならぬ循環をしているのである。心臓こそ小宇宙の太陽であり生命の座であると考ええる。

七、八年前、犬にタヌキとキツネの心臓を移植して最高二週間生かした実験が報告されているが、これは犬が二週間生きたのではなく、タヌキとキツネの生命が、心摘出で死んだ犬の体を借りて、イヌダヌキとなりイヌギツネになって二週間生きたということである。移植外科医がまんまと化かされたのであって、ただ尻尾を出さなかったまでのことである。心摘出と同時に犬本来の生

命の座は失われ、タヌキとキツネの生命の座が、犬の生命の座と入れ替わったのであって、元の犬はもはやいないのである。元の犬は心摘出と同時に、生命の座を失ったのであるから死んだはずである。また犬から摘出した心臓を、キツネとタヌキに折り返し移植した実験報告は聞かないので、元の犬は生きていないのである。犬とタヌキとキツネの生命相互交換は成功しなかったのかもしれない。

人にサルの心臓を移植する研究が進められていると聞くが、心臓の移植を受けた人はもはや元の人ではなく、人のように見えても類人猿に逆戻りしたのであって、サルの生命が、その人のなきがらを借りて生きているのである。もはやホモサピエンスではなくアントロポイドである。またいわゆる人工心臓なるものが研究されて、アメリカでは埋込式人工心臓が開発され、着装後百十二日生きた例が報告されている（一九八三年）。しかし人工心臓を埋め込まれた人間は、埋め込みと同時に、生命の座である自分の心臓が摘出されたので、死んでしまったはずである。あたかも生きているかに見えるが、それはなきがらを使って組み立てられたロボットに過ぎないのである。生きたのではなく動いた、と表現すべきではなからうか。このロボットに人権を認め人権を付与するか否かは保留しておく。

次に人の心臓を人に移植する同種族間の心臓移植であるが、一九六七年十二月、南アフリカ連邦の心臓外科医バーナード博士による世界最初の実験が報道された。生命の座である心臓の入れ替えが、人間同士の間で行われたことは、とにかく有史以来の大事件であった。当時私はこのニュースに、驚異と驚嘆と、そしてある種の恐怖さえ覚えたのであるが、また人類の福音とも思ったことであった。しかし生命の座である心臓の提供者は、心摘出と同時に死んだはずであるが、自分の生命の附属物から抜け出して、

受容者のなきがらならぬ生命の附属物の中にちゃんと生きているのである。心臓をもらって生きているかに見える受容者は、心臓入れ替えと同時に、自分の生命の座である心臓が失われたのであるから死んだはずで、そこに生きているのは、自分ではなくて提供者であることに気付かないのである。すなわち生きているのは提供者で、受容者は反対に死んでしまったのである。そこが移植外科医の魔術でもあらう。その後世界各国で一〇〇例を超える心臓移植が行われたが、最近に行われる例が少なくなったとか。「心臓提供者は分らないが、その人と共にこれからの人生を生きて行く気持だ」

これは本年四月、アメリカで心臓移植手術を受けた、日本人としては二人目の、心臓受容者の喜びの声として報道されてきた言葉である。しかし気の毒に思うことだが、当人は移植手術の時に生命の座である自分の心臓が失われたのであるから、自分はずにあの世に去り、今この世に生きているのは、自分ではなく心臓提供者であることに気付いていないのである。二人で生きているのではない。喜びというよりはむしろ、移植外科医の魔法にかかってしまった哀れにも痛ましい悲劇ではなからうか。

人の心臓移植は、今の段階では、いわゆる治療法ではなく、医術というよりはむしろ、奇術とでもいうべきではなからうか。単なる人体実験であり、単なる延命工作であり、ただ術後の生存日数の記録作りに過ぎないのではなからうか。移植によって、実用の健康体回復と充実した生活を得ることは、到底望むべくもないのではなからうか。心臓移植は好奇か、好事か、驕りか、名声の対象でしかないように思われる。またジュネーブ宣言（一九四八年）を無視し、人道の法則に反して、医学上の知識を乱用することになるのではなからうか。

接ぎ木が成功するには、生きている接ぎ穂を使うことが必要で

枯れたすなわち死んだ接ぎ穂は活着しないのである。活着すればその接ぎ穂は生きていたすなわち生体ならぬ生木からとったことになる。活着しなければ、技術の失敗は別として、その接ぎ穂は死体ならぬ枯木からとったことになる。すなわち生木からとった接ぎ穂は活着するが、枯木からとった接ぎ穂は活着しないのである。接ぎ穂ならぬ移植用臓器は出来るだけ生きがよくて若い方がいいと聞かすが、まことにむべなるかなである。

バーナード博士の心臓移植実験の翌一九六八年すなわち昭和四十三年八月八日、札幌医大附属病院で和田教授を中心とする臓器移植外科医の仲間によってわが国では最初の世界では二番目の心臓移植実験が行われ、全国を驚嘆と称賛で沸かせた事件は、十六年も前のことではあるが、まだわれわれの記憶に新たなところである。海水浴で水死したと称せられる青年の心臓を移植された少年は、八十三日生きたのであるが、ここでも私は、八十三日生きたのは、受容者である少年ではなく提供者である青年であると考えたいのである。それは、少年の生命は、心臓入れ替えのため、生命の座である心臓が切除されると同時に失われたことになるからである。生きているのは青年で少年は死んだのである。

ここで問題になるのは、少年が八十三日生きたという事実である。すなわち証拠不十分ということで、和田教授に対する殺人容疑は不起訴処分になったのであるが、青年の心臓が生着したという事実こそ、生きている提供者から生きている心臓を切り取ったことを裏付けるもので、青年を死に到らしめた唯一絶対の実証でなからうか。生着するのは生きている臓器で、死んでいる臓器は生着しないからである。ここで再び私は、生きたのは青年で死んだのは少年であると考えたいのであるが、現行法律では青年が命を奪われたことになる。結局当事者は無罪ということになったのであるが、この間の事情は、彼ら心臓移植外科医の仲間が一番よ

く承知しているはずである。

さて和田心臓移植事件後十六年にもなろうとしているのであるが、最初の十二、三年は、心臓移植実験は立ち消えたかに見えたのである。しかしここ二、三年来再び臓器移植外科医の仲間によって、本番である生きた心臓の入手を背景に、いわゆる「脳死」なるものの研究討論が急に台頭してきた。研究目的は、いかにして生体を死体と認めさせるか、生体から生きた心臓を取り出すこととの有罪をいかにして無罪にするかにあるようだ。また一部の報道機関は「脳死の時代来たる」とばかり盛んに書き立て、昨五十八年十月には、厚生省に「脳死特別研究班」が設けられるまでになった。また医者でない各分野の代表者からも、脳死患者は果たして生体か死体かを検討してもらおうとも聞いているが、脳死研究者はより優秀な頭脳を持ち主であると思うが、素人にまで相談しなければ、人間の生死が診断できなくなったのだろうか。癌研究者がしばしば癌に侵されることを耳にするが、脳死研究者も脳死っぽくなってきたのではと心配になる。

さて脳死とは「脳幹を含めた脳全体の非可逆的な機能喪失状態」ということになっているが、わが国では脳死の判定基準として①深昏睡 ②自発呼吸停止 ③瞳孔散大と脳神経反射の消失 ④急激な血圧下降とそれにひきつづく低血圧 ⑤平坦脳波 ⑥これらの判定基準が六時間以上持続すること、を挙げている。これらの六項目がすべて満たされると脳死の状態が確定され、一、二週間の中に心臓が止まって死に到ることになっている。心臓移植外科医がこの一、二週間を生きた心臓を取り出す絶対のチャンスとしていることは言わずもがなである。

次に脳死の状態についてはいろいろの表現がある。すなわち①死んだも同然だ ②神経学的の死亡 ③心臓が拍動している死体 ④脳死をもって個体死とする ⑤生きている体に死んだ脳

⑥死に行く患者 ⑦脳死が確定すれば一、二週間で心臓が止って死亡する ⑧脳死者の臓器が心停止前に提供されるようになるれば社会的に大きな福音である。以上いずれの表現を見ても、臓器移植外科医自らが、心臓は脳死の判定と同時に止まるのではなく、止まるまでに一定の期間のあることすなわち脳死の判定後には一定の生存期間のあることを認めているのではなからうか。この生存期間をすでに死亡した期間と認めさせるところに彼らの魔法があるのである。脳死は死亡の原因であって結果ではない。彼らはこの事実に気付かないのか、脳死に憑かれたのか、あるいは故意に目をつぶっているのかもしれない。結局臓器移植外科医の仲間には、脳死を、動いている心臓を取り出すという生命剥奪不法行為を合法化するための隠れ蓑に利用しようとして、日夜あれこれ策謀しているのであろう。

脳死が脳だけの死ではなく個体そのものの死亡というのであれば、先の脳死判定規程の六項目に更に「血圧〇、心拍停止とその後の法定二十四時間の観察」の一項目を追加すべきであると思う。個体が死体ということになれば、臓器移植の絶対条件である生きている臓器はもはや入手不可能になり、したがって臓器移植は絶望かつ不可能ということになる。あえてこの一項目を追加できないとすれば、そこには策略と陥穽（かんせい）と魔法があるので、はなからうか。なぜ移植用臓器は、死体からではなく生体から取るということかを公明率直に声明しないのだろうか。婉曲表現と詭弁によって問題はいよいよ複雑怪奇、胸に一物を疑わざるを得ないのである。

血圧〇と心拍停止とで死体現象が始まるのであるが、この現象は段階的に起こる。すなわち最初に脳が死に、一定時間を置いて心臓腎臓等の臓器に不可逆的变化が生じ、やがて全細胞、全組織全器官が死に、ここに初めて個体の死亡が成立するのである。

死亡診断後、二十四時間を経なければ埋葬が許可されないのは、死亡の判定を一層確実にするためでもあろう。まことにむべなるかなである。

人間の死は絶対であり真実であり一点の虚妄もあってはならない。いやしくも死んだも同然といった論法で、輕輕に他意をもって簡単に片付けるべきではない。脳死を死とすることに倫理、道徳、宗教を介入させようとするのは、人間が俗信か迷信にとらわれているからであって「人間この愚かなもの」とまで極言する心理学者がいるが、精神文明の後退をここに見せつけられるような気がする。臓器移植外科医にこそこの觀念、更には良心と良識が要求されるべきではなからうか。心臓移植外科医は、脳死患者から拍動している生きのいい心臓を摘出する承諾を、どのような気持で、どのような態度で、どんな言葉を使って縁故者を説得誘導するのだろうか。脳死者にはもはや意志はない。殺されるままになっているのである。何人も生まれながらにして生きる権利を保証されていることを忘れてはならない。

次に、もし脳死を即個体の死と判定するならば、死亡時刻が問題である。①脳死が確定された時 ②人工呼吸器をはずした時 ③移植用の心臓を切り取った時 ④心拍が自然に停止した時、が考えられる。①と②と③は個体の生きる権利が侵害剥奪された時で、④は個体の生きる権利が自然に放棄された時である。心拍の自然停止こそ、人間に与えられた合理的の死にさまではなからうか。したがって心拍の自然停止の時刻をもって死亡時刻とするのが妥当でなからうか。脳死患者すなわち絶対死につつある個体に医療行為を加えることは、尊厳なる死を冒瀆（ぼうとく）するものでなからうか。水を与えて、生きる権利の自然放棄を静かに見守ってやるのが人間として当然の礼儀ではなからうか。

猛禽猛獣のたぐいは、生きている獲物の生きた内臓しか食べな

いと聞いているが、ちょうど臓器移植外科医が脳死患者は死んだも同然と称して、生体から生きのいい心臓を切り取って移植に使うのと、そのやり口がよく似ている。皮肉といえば皮肉の話であるが、心臓移植は禽獣にも等しい、人間の為すまじき野蛮行為ではなからうか。まさに死につつまる脳死患者から、生きながら心臓を切り取ることは狂気の沙汰というべきだろう。人命の尊厳を忘れ、死に対する敬虔の念を忘れ去った非人間のわざではなからうか。脳死の個体はかばねか、しかばねか、なきがらか、死体か屍骸か、遺体かそれとも死んだ人のいずれだろうか。そのいずれでもなく、疾病ならぬいわゆる脳死の状態を患っている患者それ自身すなわち生存者そのものである。すなわち脳死の個体は患者であつて死んだ人ではないのである。

脳死患者の胸郭が開かれて、動いている心臓を目の当たりじつと見つめた時、誰が個体の死亡をすなわち個体が即死体であることを信ずるものがあるだろうか。心臓が動いていても、あえて個体を死亡すなわち死体と判定するのは、偏見と野心に満ちた心臓移植外科医の仲間だけではなからうか。頭がすでに脳死がかったものではと危惧しないわけでもない。

かつて今次大戦中南方で、兵隊が仲間の心臓や肝臓を食べた話を聞かされた時、思わず戦慄と違和を覚えたことであつた。また戦時中九州医科大学で、捕虜の生体解剖をやったとかで、アメリカの軍事裁判にかけられ、重刑に処せられた恩師のことが思い出される。

裁判をしたそのアメリカでは、一部の州とはいえすでに、脳死が法文化され、脳死患者から生きた心臓を切り取ることが認められ生体解剖ならぬ心臓移植実験が、誰にはばかることもなく、白昼堂堂と重ねられていると聞く。人権についてはことのほかうるさいかに見えるアメリカは、人権に関する世界宣言（一九四八年）

を忘れてしまったのであろうか。脳死患者から生きた臓器を取り出すことは、凡ての人に与えられた生きる権利を侵害するものではなからうか。

それやこれやを思い合わせると、時代の変転といい、思潮の変革といい、まことに今昔の感に堪えないものがある。もっとも今日は、有罪が逆転して無罪となり、違憲も合憲となり、生体も死体にならうとしている世の中である。うなずけないこともないが「人間この御都合主義的なもの」とはいたくもなる。

今では万物の霊長をもつて任ずる人間が、いよいよ本性を発揮して、共食いをする時代になってきたかの観がある。すなわち臓器移植の適応患者が病院に予約しておくと、すでに人の生き血は別として、心でも肝でも腎でもお好みの、生きた人間のもつを幹旋（あっせん）してもらえ仕組みが出来ている。人が人を食う恐ろしいといえれば本当に恐ろしい世の中になってきたものだと思う。

臓器移植はさすが肉食の多い、したがって血の多い紅毛人のすることと思っていれば、わが日本国でも、肉食でようやく血の気が多くなってきた医師たちは、生体から心臓を取ってきて、部品交換ならぬ臓器移植をやって見たくなったのではあるまいか生贄（いけにえ）に依存した臓器移植行為は医の本質に反し、医療の進歩ではなくむしろ後退であると思う。臓器移植をやらなければ医療の進歩に遅れるといつて心配する向きもいるが、臓器移植ばかりが医療の進歩でもあるまい。非文明的野蛮行為は遠慮して、別に人間らしい医療法を考えたらどうかと思う。

今は野菜、果物、魚類、家畜、なんでもかんでも増殖の時代でもある。物質文明躍進の時代とでもいふべきか。いっそのこと遺伝子工学のクローニングで臓器移植用人間の増殖を図ったらどうだろう。お好みの臓器が容易に入手できる。無性生殖で出来た人

問は、人格も人権もないロボットである。自給自足が出来るし、第一脳死のように人を殺さなくても済む。もっとも今成功したとしても、移植用として使えるまでには十五、六年はかかるだろうが、安易な部品交換という単純素朴な原始的発想の上に胡坐（あぐら）をかいてしまわずに、頭をこの方向に向けたらどうだろうと余計なお節介もしたくなる。

最近人類愛の一環として、腎をさし上げるといいうわゆる献腎なる名の下に、腎の登録運動が展開されるようになった。「私の死後私の腎を提供してもよいです」の一筆を入れると、誰でも登録できると聞いている。

ここで問題になるのは「死後」の解釈である。登録者は心拍停止以後を死後と心得ているだろうし、また高齢者でも登録できると思ひ込んでいたのではなからうか。

死体ともなれば、腎臓は早くから自家融解を起こしてくるので登録者の考えている死後の腎は生着しないのである。生体から取るか、脳死で心拍が停止する前に取ったまだ生きている腎が必要である。年齢も十六才以上五十五、六才までが望ましいとか。

高齢者のいわゆる使い古した、まして命の灯（とも）もしび）が尽きた後の死んだ腎は役に立たないのである。したがって臓器にも停年制があつて、六十才以上は登録から自然にはずされることになる。いわゆる死体腎をアメリカから輸入していると聞くが、これはなきがらから取った腎ではなく脳死でまだ生きているすなわち心拍停止前の患者から取った生きている腎のことである。アメリカでは脳死の患者は生きていても死体と認めている国であるから死体腎といつても生きている腎のことである。脳死患者から取った脳死腎いわゆる生きている死体腎は生着するが、死体から取った死んだ腎は生着しないはずである。当事者は後日問題が起これぬまでも、この間の事情を登録者に周知徹底させておくべきでは

なからうか。登録者は知る権利があるし、当事者は知らせる義務があると思う。幸か不幸かわが国では、人の生きる権利を剥奪するような医療と称する行為はまだ認められていない。

わが日本国では、血縁者間の生体腎移植例がようやく多くなってきたようだ。生体腎提供者は、人類愛、同胞愛、いけにえ精神といったことばで説得誘導され、本来生きるために必要なが故に二個の腎を授かっているのであるが、その中の一個を切除されて生まれもつかぬ不具者となり、縮命という不利な条件まで背負されることになるのである。腎移植外科医は説得誘導するが、腎は取って取りっぱなし、補充することはしない。将来の健康の保証もしてくれないし、生命保険には条件付きでも入れるかどうか分からない。生体腎提供者はどのようにして腎の提供を動機づけられ、どんな気持で手術承諾書に判を押すのだろうか。これも亦一つの悲劇というべきだろう。この悲劇は、かかる臓器移植行為を、あえて腎患者に知らしめた臓器移植外科医の責任ではないとはいひきれないだろう。今、腎の移植を必要と称する患者が一万から一万五千いると聞くが、いずれもみんな誰かの腎を狙っているのである。悲愴といおうか、無情といおうか、一抹の寂しささえ覚えるのである。まことに罪な話ではある。再び、臓器移植をあえて患者に知らしめた移植外科医の責任は重大といわなければならないだろう。

最近日本臓器移植学会の四人の外科医師がアメリカの真似でもあるまいが、自動車の運転免許証に、死後の臓器提供の承諾署名欄を設けて欲しいと、自治大臣に陳情したことが報道されているが、早手回しのことだ。竿頭更に一步を進めていっそ、交通事故取締りの撤廃を申請したらどうだろう。そのほうが手っ取り早いのではなからうか。一方で交通事故を取締れば、一方で交通事故多発を望むが如くである。撞着矛盾もここまで来たのは脳死っぱ

くなった人の発想ではと疑いたくもなる。心臓移植を早くやってみたい気持は分からぬでもないが、分裂的思考と狂気を恐れるものである。

ここで再び注意しておきたいことは「死後」なる用語である。

文字通りには「死んだあと」のことであるが、臓器移植外科医の間は、脳死の判定後を、生の証である心拍があっても死後と判定し、われわれが習った医学を含めて社会一般通念は、心拍停止後を死後と承知していることである。生は絶対であり死も亦絶対である。生と死の共存はあり得ない。生と死を共存させようとするところに、彼らの思考の非現実性と不合理性があるのではないだろうか。

他の生物を救うために、または仏に供養するために、わが身を投げ出すことを最上の布施とする薩埵（さった）太子の捨身飼虎の教えを引用して、献腎の精神を説いた宗教家がいる。脳死の患者から切り取った生きた移植用臓器を最上の布施とすることは、布施の精神からうなずけないこともないが、精神の座を失ってもなお生きつづけている人間から、生きながら臓器を切り取ること、憲法で保証された生きる権利を剥奪し、仏が最高悪として戒めている殺生すなわち殺人の罪を犯かすことになるのではなからうか。

一本のローソクの炎を別のローソクに移すには、そのローソクが燃えている間でないに移せない。燃え尽きたローソクからは炎は移らない。同様に脳死患者から切り取った生きている臓器は生着するが、死体から取った死んだ臓器は生着しないのである。脳死患者こそ哀れにも、臓器移植外科医にとって、最も理想的な好餌ならぬ移植用臓器の提供者である。脳死患者の心臓は動いている。最後の生きる権利を主張して動いている。脳死患者は死んではいない、生きているのである。

脳死を即個人の死と認める法律制定のため、六人の医師の資格をもつ国会議員が、①脳死の診断がついたら個人の最終的死亡とすることにはや医学上の問題はない ②米国から脳死で摘出した腎臓をどんどんもらいながら日本国内で脳死を認めないのはおかしい ③欧米先進国のように日本でも脳死を個人の死亡と認める法律制定が必要ではないか、ということとで議員立法の準備を始めることになったと聞く。これは去る六月三十日の報道であるが脳死を即個人の死とすることは医学上にこそ問題があるのであって、米国がやっているから、先進諸国で認めているから、日本でもやってみようの単なる追従模倣主義的思考は、あさはかといえば余りにもあさはかな発想ではなからうか。

臓器移植は治療法ではなく、核爆発実験ながらの流行的生体実験ではなからうか。もし流行ならば、憲法に違反して人の生きる権利を剥奪し、殺生の罪を犯してまでもやる必要はないのではなからうか。脳死を即個人の死と認めることは、利己的御都合主義というか、偏見というか、むしろ分裂的妄想的思考であって脳死に憑（つ）かれた結果でなからうか。こと人命に関する限り、生は生そのものの死は死そのものであって、生と死が共存するような中途半端な死んだも同然的判定は危険である。心拍の決定的停止こそ絶命そのものである。もし憲法に違反して、脳死を即個人の死とするいわゆる脳死法なるものが制定されたならば、人の生きる権利は何によって保証されるのであろうか。人類の福祉とはうらはらに、生きる権利を剥奪される脳死患者の最後こそ無情と申すべきだろう。われわれは心臓が動いていても、死んだも同然かどうか、一度は自分を疑って見る必要があるのではなからうか。

臓器移植は、民族性や、国柄や、人間性をも異にするキリスト教徒すなわち紅毛人の為す業（わざ）であって、われわれの学ぶ

べきところではなく、理性と良識のあるホモサピエンスならば決して為すまじき行為であると思う。臓器移植の過程を、善悪をもって判断するならば善とはいえないだろう。むしろ臓器移植はしない方が知性人間の誇りではなからうか。

何人も生命、自由及び身体の安全に対する権利を有し、何人も生まれながらにして生きる権利を妨げられない。また医学に志すものは医学の知識の乱用をしてはならない。臓器移植は、人の生きる権利を剥奪し、健全なる身体を毀損し、医学の知識の乱用である限り、人道に反し医道に悖（もと）る行為であって、厳に戒むべきであると思う。

人の命は軽視してはならない。人の命は尊重されなければならない。またその死は尊厳であり厳粛である。人は脳死では死でない。人は心拍停止で死ぬ。心臓は動いている人は生きている。殺すべからず生かしむべし。生かしむべし殺すべからず。人の命は地球より重い。

(一九八四年八月五日)

旧友通信

松 原 初 男

室蘭市医師会の皆さん、お元気ですか、私も元気で、毎日診療に励んでいます。

三十年余りお世話になった室蘭市医師会より、胆振西部医師会に移って、早くも六年になります。誠に月日の経つのは早いものです。

私の勤務先は、豊浦町大岸豊泉にあります特別養護老人ホーム

幸豊園と、大滝村優徳にあります北湯沢病院の二ヶ所です。どちらも老人主体の施設ですので、まるで自分の親か伯父伯母を世話しているような感じです。自分も将来あのようなことになるのかと、一寸さびしい気もします。

寝た切り老人もいれば、結構元気で、ミニビリヤードや、ゲーボールをして楽しんでいる老人もいて、いろいろです。中には可成りボケた老人もいます。ここに勤める看護婦や寮母は、少しもいやな顔をせずに、献身的に身の廻りや、下の世話をしています。その姿には全く頭の下る思いがします。

姉妹病院のエルム大滝病院には、有路先生がおられて、元気に働いています。今年も休日には好きな山菜取りをしている事でしょう。

健康の為に、タバコはこちらえきてからすぐやめました。酒は付き合い程度にしています。お蔭で今は身体にどこも悪いところはありません。休日は、夏はゴルフ、冬はスキー、をしています。此度は、室蘭登別保健センターの竣工、並に活動開始、お目出度うございます。室蘭市医師会の益々の発展と会員の皆さんの健康を祈ります。



わが青春

弘前の三年

鴨井清 一



私の青春と云えば四十七年前、苦しく嫌な入試を終え弘前で過した旧制官立高校時代であらう。

当時、日本は紀元二千六百年を謳歌し絶頂に達した時期で、他面に於いては無謀な軍国主義の最大最後の賭勝負に突入する直前で、日中戦争勃発翌年、国家総動員法公布の年であった。

高校生活は明治に発し大正に爛熟時代を

迎え、昭和に入って自由主義、人格主義を掲げて先達たる自覚と希望に燃えつつも、滔々と打ち寄せる軍国主義の嵐に抗しかねて苦悶を呈し始めていた。

入学して第一頁は朴歯の下駄に腰手拭、肩からマントをひっかけ街頭闊歩、寮歌高吟、長髪を乱してストームの乱舞、コンパにダベリ、春は岩木山を望む鷹揚城の桜、夏は笹森山の逍遙、秋は寮祭に文理科対抗試合、冬にはスキーと全く無我無中の様であった。

又、先輩から説かれた生活の真髄は、学校、寮、運動の三位一体と云われたが、私はこれを全うする事が出来ず、寮では北一寮委員をしていたが、一年で辞めて桔梗野の下宿に移り、運動については、北一寮同室で理科甲類の真面目優秀な木村喜代治君（現在名古屋国立病院長）と共にスキー部に属していたが、ランニングが不得意のためか春から秋にかけての毎日五キロを走る練習にへばってつい、終りにはコンパ部員になって了った。

当時、学校の席次は毎年度成績順で、教壇に向って最後列の右端から順次に坐ったもので、第一外国語をドイツ語とする定員三十名の我が理科乙類は最も激しく変動が行われ、これは生活の流れを反映するものでもあるが、何れにせよ当時の生徒は席次を

問題にせず、何時も愉快に語り、万八を飛ばし、特に形而上学を聴き、文学を語り合ったり、また処々を一泊見学旅行し、級対抗戦に出場し、特に秋の行事としての文理科対抗戦は最も熱のこもったもので、小生鬚面の故を以って理科応援団長に祭り上げられ黒紋付の羽織袴に紅白の幟を立てて花々しく応援合戦をしたもので、相手の文科応援団長は以前、新日鉄室蘭製鉄所労働部長をつとめられた相馬一男さんの若き姿であった。

甘い花香匂る林檎野を、遠く青い山脈の上にぽっかり浮んだ津軽富士が朝に夕に色彩を変え、郭公の鋭い声が鳴き渡るのを聞きながら通学した桔梗野がしのび、静かな幸が私を包んで、戦争が何処で行われているのか錯覚をする様であった。富田通りの曲り角の赤屋根のトンガリ塔の映画館（慈善館）が唯一の洋画常設館で「望郷」、「格子なき牢獄」、「会議は踊る」等の封切を観たのは此処であったように思われる。軍事教練の時間に下駄や草履を履いてみたりして往年のバンカラ風が残っていた様で三年間の高校生活は、日本の運命を決する大戦争を控えた異常な社会情勢に押されながらも、依然として、その本質を失わず、揺ぎない人格形成の基礎を打ち建ててくれた様に思われるのである。

会 談 座

「われら家族のごとく」

皆 川 英 貞 深 瀬 政 俊 堀 尾 行 彦
開 田 吉 広 山 本 俊 一 他 編 集 委 員

昭和59年 8 月 6 日

登別市中央町

ホテル平安

加藤 お晩でございます。夏日がつづいて十日目、お疲れのところご苦勞様です。

波久島五号誌に載せる座談会なんですが、古い歴史をもつ土地柄でもあり、青い灯赤い灯というよりも幌別ドクターならではのお話を伺いたいわけでして、何はともあれノドをうるおしながら——まあ、気楽に始めたいと思います。

昭和28年ですね、室蘭医師会に合併されたのは……。

皆川 そうです。大岩先生や温泉の齊藤省三先生が、保健所も同じなんだから室蘭医師会の方へ入ろうかということになって28年に入れてもらった訳です。齊藤義太郎先生が会長でした。

ぼくは25年に来たんですがその時は幌別村で、それから町、現在は登別市ですね。

山本 深瀬先生のお父さんが村長さん、長かったんですよ。

皆川 ぼくの時は大石橋村長。

深瀬 おやじは官選の村長で空知から終戦の年に派遣されて——まあ転勤になって村長として来たんです。それが昭和20年4月ですが終戦になって追放令にかかって、それから第一回の選挙があったんですね。その時、私は学生だったから幌別に居たことはいないんです。

幌 別 入 り

皆川 ぼくは伊達日赤の壮警分院から25年8月に靴一つでこっちへ来ましてね。その当時、国立の分院があって伊藤貢先生と上田憲次君と二人が出張医で居たんです。

深瀬 記憶ありますよ。三十六号線の警察のあたりに診療所がありましたね。白鳥先生という正規のドクターじゃないけど、限地開業というのかな——その人が村長選挙に出て落ちましてネ、間もなく亡くなったんです。その白鳥さんがやめられた後に、伊藤、上田の両先生が来られて、その後には皆川先生が……。

皆川 そう、そのとき登別には狩野君が既に来ていて、大岩先生はボクと一緒にやめて、驚別に来たんですが、ボクは壮警に行って一年後の25年になったわけです。

開田 ぼくは遅いんです。37年。

深瀬 ぼくは32年。

堀尾 ぼくは34年です。

皆川 この先生は富士鉄病院にいて、こちらの方にもいろいろ縁があったわけで——だから幌別に入ったらボクなんかより先生の方へ、先づ……。

堀尾 いやあ、そんなことないですよ。

山本 広瀬先生は36年、私が46年で、久安

先生48年かな。一番新しいのが中央病院。
堀尾 住みつかれたのは深瀬先生が一番最初でしょう。

深瀬 そう、大学に入った年だったかな、昭和20年です。白鳥先生が一人、その後、に広瀬先生の親戚で渡辺先生が来られたんだけど……大久保先生のお父さんは此処へ見えたでしょう。

大久保 思い出しました。親父は21年に日鉄病院をやめてからしばらくして東室蘭駅前、の工藤先生という方が亡くなられた跡をお借りして開業したことがあるんですけど、週2回ほど白鳥先生の処に行っていました。22年頃でした。

深瀬 お父さんの名義でやっていたんですね。大久保 ぼくがまだ中学生の時でした。当時は食糧事情が悪かったでしょう。進駐軍の配給の空缶を二つ持たされて親父について行きましたネ、イワシ、魚のイワシを貰って帰って来るんです。

幌別は古いでしょう。片倉藩が入植した頃まで遡るわけでしょう。当然、医者者は居た筈なんです。昔はどうなんでしょうね。

深瀬 ウーン、そのあたりは上田智夫先生にでも聞かなければ判らんなあ。狩野先生より古いと思うけど、登別に鈴木正先生がいましたけどネ。

大久保 中村秀先生のお話では、開業医で古い人はいないけど戦争中から来馬社宅の方に診療所があったんですね。

深瀬 ウン、それが現在の堀尾先生のとこ堀尾 俺の家の、元の幌別診療所が。来馬の社宅は昭和17年に出来たそうで、ぼくの開業した頃に引き払って行ったんだけど、当時七千人位いました。千四百戸ありましてね。

開田 そう聞いていましたよ。ニセコの人口が八千人なんです。幌別には社宅があって八千人いるからお前行って間に合うよーって言われましたよ。

山本 ここに来た理由に特別なものはないんです。無給医局員だった頃小遣いかせぎに生命保険の診査医やってましてね。高額の診査で出張してきた事あったんです。来てみたら全然雪が少いんですネ。札幌ではウンザリしてたでしょう、北海道でこんな処あるって知らなかったもんね。こりゃいいわ、とに角雪のない土地で開業してやりましようと思ったんですヨ。

開田 ぼくはニセコからでしょう。ニセコは屋根の雪は下ろすんでなく、上げるんですよ。窓の周囲を掘ってね。電信柱の電球は完全に届くんです。そんな豪雪地帯でしょう。こっちへ来たらーあの当時は殊に少なかったから一年中に何回か竹箒で掃く

だけ。天と地の違いでした。

おかしな話だけど、ここへ来てからスキーを始めました。ほんと。

皆川 あっちぢや雪かきに忙しくてスキーは出来なかった？（笑）

山本 北海道は小さな島だけど、四辺形の一つ一つなら、ちょっとした大きな国ほどの違いはあるんじゃないかな。

江差の冬は知らないけれど北見、釧路は寒いでしょう。ここの一辺が一番いいんじゃないかなあ、特に冬場はネ。なんせ物臭さなもんだから雪の少いのには惹かれて。

開田 今だから言うけど開業規制に距離の問題がありましたね。三百米だったかな。あの時、山本先生と私のところと近いんぢや、いかという事になったわけ。委員長が先生でネ、彼みづからメジャー持って（笑）測って、イヤあるあるって。直接引つ張れば三百以内だけどお前どうするって聞くから、オレは山本先生に来てもいいよって予め言っているからいいんだ、ガタガタする必要ないよって。

先生とオレは同じ医局だから、どうぞ、どうぞって歓迎した方だからネ。

青木 正確には適正配置委員会でした。

往診、往診また往診

◆◆ 皆川先生がいらした当時は往診、広範囲に歩かれたんでしょう？

皆川 いやあ、往診はまあ社宅方面だけでしたが——鉢山には週一回金曜日に嘱託という形で行きました。軽便軌道でね。

その頃は従業員が大分いましたよ。

堀尾 景気もよかったですでしょう。

皆川 あの頃はみんな同じだったろうけど夜中によく起されました。

深瀬 日曜でも午前中やってましたからね開田 前任地のニセコでは有線放送で往診依頼なんです。OKだと言うと馬や馬そりで迎えに来るんですが、午後9時に連絡があって、10時に出発、診て帰ると一—二時間たっているんです。

そんな辛い目に会っていますから、こっちへ来て開業してみますと七転八倒しても皆さんトラックに乗せてくるので、ずい分楽な処だなと思いました。その代り祭の夜など一時間おきに起されて、ズボンを穿いたまま寝た記憶はありますがね。

堀尾 内科医の宿命でしたネ。

深瀬 今だに記憶しているのは、土曜日でしたか、昼から往診・往診で16軒目は夜の12時になったんです。たまたま弟が東京から遊びに来ていてマアちょっと飲んではいましたがネ。富浦まで行ってその帰り踏切に突込んだじゃった。



海霧がかかっていたもんだから斜めの踏切りを真っ直ぐだと思って……ボンと行ったら上・下線の真中で車が止まってしまった開田 あの時の新聞記事知ってる？ダブルパンチって出たもんね。上下線同時にやって来たんでしょう。

深瀬 そうなの。鉄道官舎があったから起してネ、下り線を止めてくれたの。ぼくはトンネルの方へ向って上りの汽車を止めに走ったんだけど、両方からやって来て——ボンと打つかったの、車に。(おー)

山本 接触したってことですか？

深瀬 いや、車はメチャメチャ。

堀尾 飲んでいたのとは関係ないですね。

深瀬 それがね、常識がないもんだから、翌日ゴルフに行ったの。届けも何もしないで(笑)。そうしたらゴルフ場呼び出しがかかって来てね。警察に行つて調書取られて。(笑)

◆◆ 16軒ちゃ大変ですねえ。

深瀬 もっと、その前、開業当時から。インフルエンザが流行しましてね。朝6時から9時まで往診、帰ってきて昼まで診察、午後からまた往診・往診で夜の1時に虎杖浜から帰ってきて——まだ10軒残っていましたよ。とても廻り切れなかった。

山本 あの頃は熱が出ただけで往診なんだ深瀬 車が無い時代だから連れて来れない

◆◆ ずい分頑丈だったもんですね。

深瀬 三日間そんな状態が続いたら家内の方が倒れましたよ。

山本 しかし現今の患者みたいにウルサクなかったから、その意味では気楽といえれば気楽かもしれない。

深瀬 むかしは往診の未収多かったナ、何軒も廻っているとな名前が判らなくなつて、どここの家の何才の女の子って——そんな書き方でネ、殆んどが未収でした。

堀尾 ぼくは34年開業ですけど診療所には前からすこし居たでしょう。組合運動が一番強い頃だし、毎日2、3回は起されました。杜宅も10軒以上廻っていたけど。

◆◆ 組合が強い頃っていえば、クレームなんかありました？

堀尾 前の人はあつたとか聞いてたけど、ぼくはなかった。

皆川 外科は伊藤貢先生だけで忙しかったですよ。

開田 お産は産婆さんで大体間に合っていましたね。

ぼくの来た頃はこれから町も発展するという時でしたから、バラックみたいな飲み屋も出来始めたし、なにか荒んだ感じが流れていて、ドアをけとばされた事もありました。何度壊されたかな。

深瀬 真夜中に酔っぱらったオヤジが入っ

て来たことあつたの。一枚ガラスのドアをけ破つてね、うちの家内きてるかつて。俺、こんなチビだけど格闘さ。

堀尾 クランケぢやないの？

深瀬 酔つて家に帰つてネ、腹立てて子供を窓からほうり投げたのね。おかあちゃんが子供をかくしたもんだから、てっきり病院だと思つて乗り込んできたわけ。

皆川 ウン、話に聞いたことあるなア。

山本 ここでは皆さんのような話はないけど卒業が34年だから他処では似た経験はありました。流感和往診とは同意語みたいなものでしたからね。

深瀬 こんな事もあつたな。開業したての頃、愛想のいいブレが居たの。そしたらネ子供が一人で来たの、昨日診た子供……おんなじ顔してるんだネ。一人で来たの、エライね、お利口ね、つて昨日と同じようにお尻出させてベニシリン注射したのさ。

注射終つてネ、その子が言うんだ。お兄ちゃんの薬ちょうだい。(爆笑)

山本 先生方、カルテ見て患者の顔浮ぶ場合と、患者の顔を見て名前が浮ぶ場合と、どっちですか？ (ウーン)

ぼくはね、患者の顔見ても名前浮ぶないカルテ見て何々さんと呼ぶ時バツと顔浮ぶんですよ。だから街の途中で会つても姓名は全く判らないナ。(そう言われればそう

だな、やっぱカルテの方だネ)

◆◆ 水害はどうでした？

深瀬 昭和36年、忘れもしない次男坊が生れた年に洪水がありましてね。運がよい事に病院をちょっと高く造つていたんです。患者さんが入るのに不便だよって説もあつたんですがネ。それで荷物はみんな二階に上げましたけど床下すれすれの浸水でしたよ。向いの家なんか押入れまで水がついて——下水道がないからウンチンが上つてくるの、向いあたりに兄貴がいるんだけど、ひどいんだ。(笑)

去年、おとしもありましたよ。

皆川 ぼくは最初の時はひどい目に会いました。すっかりやられてネ。荷物を入れないうで神棚に一升瓶上げたつて——今でも言われてるんだ。(爆笑)

深瀬 そうそう、まづ酒を避難させたつて話、有名だったもんね。(笑)

◆◆ お酒の話になりましたね。

友ありて酒

深瀬 皆川先生は酔うとクシャミが連発するの。当時面白がつて笑っていたけど、近頃ぼくも飲み過ぎるとクシャミ出るの。年取ってきたのかな。出るねえ。

開田 出るでしょ。

開田 出る出る。

深瀬 誰か仕掛人がいないと飲みに出ないもんなのさ。伊藤先生がとに角呼びかけるの。ほとんど毎日出たネ。伊藤先生の車で浜町へ——酔って運転して帰って来るの。第一回座談会に出てたけど、佐藤善弘先生が、幌別の奴等は浜町のして歩いてるってネ——伊藤先生が号令かけると、皆川先生はお人が好いし、ボクも誘われるとイヤと言えないたちだし、大岩先生もあの通り、そして狩野さんでしょう、開田先生が来られる直前までよく行ったんですワ。

◆◆ 地元では？

開田 小さい店はあって、行けばヤアヤアって言うってくれるけど、やはりネ。行きませんでした。

堀尾 ぼくは社宅が相手だったから差障りもないし、町場には結構行きましたよ。

開田 ああ、そう、いい思いはした？

堀尾 いや、ぼくは全然……いい思いも失敗もないですよ。

深瀬 うちの町で六無会というのを作ったことありましてね。ぼくがチビドク、皆川先生はハゲドク、伊藤先生がヒゲドク（笑）あとの三人はドクターじゃないけど株を買って儲けて飲もうってわけ。何のことはない、儲けの何倍も何十倍も飲んでしまっただけ。（そんなもんだヨ）

◆◆ 最近はどうですか？

深瀬 シュンとしているよ。

皆川 あはははは……

◆◆ 中島町には？

開田 行きませんね。鶯別の飯島・大岩先生ぐらいじゃないですか。

深瀬 そうね。鶯別は室蘭市民だものネ、

（殊に夜の？ そうそう 笑）

皆川 うちの二人は結構歩いているようだな、市立病院の若手の人達と関係もあつて

山本 ぼくは一年以上中島に行っていない。

深瀬 へえ、そーお。先生は今独身だからね、ウィークデイは。引く手あまたでないの？

山本 イヤァ……一頃東室蘭にマージャンに行つてましてね。勝った時は焼鳥屋に寄ったりもするけど、駅の向う側には渡らないもの。でも三軒ぐらいボトル置いて来たことはあるの。三月に一度なら行くこともあると思つてね。みんな流れちゃったけど堀尾 真面目なんだね。

山本 イヤァ、物臭さなだけ。

大久保 山本先生と私は大学同期なんですけど、われわれの年代が一番マジメぢゃないですか。学生時代は一杯50円のハイボール全盛期でしょう。赤線も青線も知らないトルコ風呂なんかずーとあとになってからでまだなかったし、友達の話も聞いて

たことがないですよ。（反論なし）

同族ならねど

◆◆ 幌別は地区的に広いですけど人口は区分されて集中してますね。そんな状況の割にドクターの数は多いと思いますが。

皆川 そうかな。大きな病院があるといっても全道的というか、そんな性格を持つてゐるんだし。

開田 まあ、いい按配に配置されているんじゃないですか。それに先生方が皆いい人で一人だけいい子になろうなんて人は居ないし。

深瀬 よそに比べていいところはネ、団結というか仲が良いの。

開田 本当腹の底から仲が良いんだなあ。

深瀬 奥さん連中の会があるの。「紬会」と言つてね。開田先生の奥さんが主体になつて年に一回か、集つています。

開田 皆川先生ご夫妻が音頭をとられて、それを中心として出来上つたんです。

たまたまウチの女房は先生方の奥さんとそれぞれ親しかったわけ。でもお互い知らない奥さん方もいるでしょう。それでやつて見ようという訳で皆川先生の奥さんにご相談申し上げたら、それは善い事であるというところから始まったの。

◆◆ 成程。皆さん片倉藩の同族ぢゃないかと思うほどなんですけど、医師協議会が団結に役立ったわけですか。



深瀬 そうなんです。大岩・狩野・皆川の三先生でやってたんですが、そこに僕が入って広瀬さんが来て、開田先生、堀尾先生となつて……だから歴史が何時からだったか判然しないの。規約もないの。

山本 平取のあるドクターの川柳に「犬と猿さてその次は医者同志」っていうのを見ましたがネ、ここの医者には全くそういうところないんです。

開田 恵まれているんだなあ、本当に。珍らしいくらいですよ。

深瀬 ボスがいいからなあ、皆川おとうちゃん。

堀尾 そうなんです。

山本 ただネ、俺がそうだから思うんだけど幌別の医者は物臭さだヨ（笑）

どうでもいいって感覚が底に強いと思うんだ。まあ、こういうヌルマ湯的な中ではね、プラスの面もあるけどマイナスの面もあるしネ（笑）

ガツガツ働く人もいない。せつせと勉強する人もいない。（笑）

◆◆ でも最後に残るのはヒューマンなつき合いだから。

開田 そうなんだナ、仲良さは自慢出来るナ。何よりもボクはそれを言いたかったんだ。

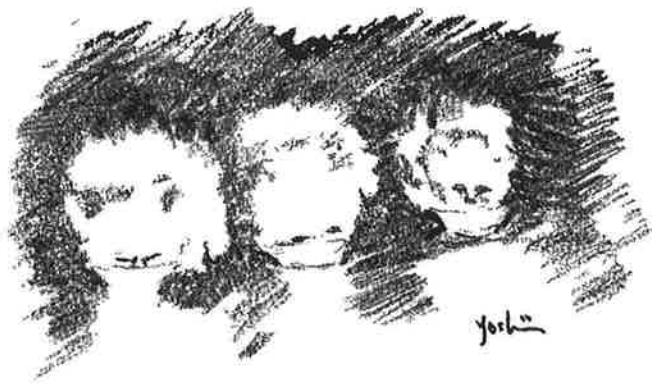
村井 いい落ちがきましたね。

（この後、医師論、友情論から世相、社会時評と主に山本先生の辛辣にしてユニークな論説がつづいて、一座おおいに笑い、かつ傾聴する。

ほどよき酔いの楽しさに乗って各先生も更に談論風発、予定の時刻をはるかにオーバーした）

村井 まことに心楽しい座談会にしていただき、また長時間ありがとうございましたこれで西から東と一応終ったわけですが、山本先生あたりに中心となつてもらい医師会を斬る（笑）世相を斬る、そんな座談会もそろそろいいんじゃないか、と思いますどうもありがとうございました。

（拍手）



あ ん ら く い す

阿部新一先生と私

柘植重夫

大正の終りから昭和の初めにかけての東北大医学部の研究室生活は、極めて厳しいものであった。初代教授の加藤豊治郎先生の丁度アブラののり切っていた時期であり、弟子達は夜遅く迄、研究に精を出していた。そして教授の前に出ると、直立不動の姿勢をとり、ロクに口もきけない緊張振りであった。

昭和五年春、私は卒業とともに、この厳しいとわさされていた教室に入局した。加藤教授、中沢助教授（室蘭市出身で現在中央町で洋品店を開業している「柏屋」の関謙吉君の伯父に当る）を頭として、入局後七、八年の講師や助手など錚々たる顔ぶれが、ぞろりと揃っていた。教室員は六十名もいたことであろう。そのなかに研究論文に精を出していた阿部新一氏がおられた。その頃の博士論文は、すべてドイツ語に翻訳されて研究誌に公表されたもので、その阿部さんの論文の校正の手伝いに、新参者の私が駆り出されたのであった。当時私は

或るドイツ語の原書の翻訳に精を出していたので、ドイツ語にはそう弱くはなかったつもりでいた。それで可成り重宝がられたのであった。阿部さんもそれを徳としていたことであろうが、翌六年には論文を提出して、研究室に別れをつけ、室蘭市立病院の内科医長として赴任して行かれた。

私は昭和六年二月より十ヶ月間、陸軍衛生部幹部候補生として軍隊生活を送り、同年十二月より医局に戻って研究生活をやっていた。昭和七年七月、室蘭市にバラチフスが流行したので、阿部さんから、加藤教授に医師の応援をたのむとの要請があった。そこで教授からお前行けと私が指命されたのであった。私はその頃いわゆる軍隊ボケで、ぶらぶらしていたので早速バラチフスの防疫の応援にかけつけたのであった。そして阿部さんや、当時既に室蘭病院の医員として働いていた、内科、小児科の同期生の友人と一緒に、防疫業務に専念したのであった。そして一ヶ月後にバラチフスは終熄したので、一日阿部さんの招待で、洞爺湖の周遊を試みた。その頃の洞爺湖は静寂そのもので、ホテルは一軒か二軒しかなかったように記憶している。

時は移って昭和十二年七月蘆溝橋事件に端を発した日支事変勃発、阿部さんは召集された。私は仙台の研究室に在って、間も

なく研究論文も出来上る頃であったが、おなじく召集を受け、仙台の陸軍病院で、昭和十五年の夏迄、丁度三年間内科の診療主任として働かされた。その年の八月、召集が解除されたので、直ぐ加藤教授に挨拶に行ったところ、先生は待ってましたとばかり、室蘭市立病院の内科医長が空いているので、お前行かないかとのことであった。阿部さんは、既に中支から帰還されていてその年に急逝された齊藤豊治先生の後任として院長に据っておられた。阿部さんはそれから十年の間、院長として快腕をふるわれた。その頃は未だ開業医が少ないので、輪西、祝津に分院を建てられ、網の目のような診療態勢を整備されていた。時恰も大東亜戦争の昭和十九年には幕西の料亭「常盤」を分院として買収して本院との間に約八十米位の隧道を造り、本院との連絡路としてのみならず、いざ空襲となった際には応急処置をとれる簡易手術室を設備するなど、病院の管理運営に当たっての手腕を発揮されていた。そして戦後も落ちついて来た昭和二十三年頃には、大正初頭建築の木造本院も老朽その度をましていたので、裏にテニスコートとして使用していた空地を整地して、本格的な病院建築の構想を練っておられた。

私は昭和二十二年、七年間の医長、副院

長生活にピリオドをうって、開業医に転身し、自転車をとばして盛んに往診に精を出していた。丁度今の診療所のある幸町の新地を購めて新築を完成し、やれやれと思っていた矢先、思いもかけず市立病院の全焼ということになった。しばらくして阿部院長は辞任され、後任院長に市当局と東北大学当局とが、いろいろ選考を重ねたようだが、結局他に適任者を得られずに半年を経過してから、とどのつまり、市立病院に最も近い診療所で開業していた私にお鉢が廻って来たのであった。阿部さんと私は、前に記したように大学の研究室時代から何かと因縁浅からざる関係にあったが、先生の跡を継いで院長になるとはまことに不思議なえにしとも思い、あの焼け跡の整理は、後輩の私に課せられた責務であるとも感じとったわけである。

阿部先生は市立室蘭病院を辞められたあとは、開業されたり、函館検疫所室蘭支部長として活躍されたが、この度市立室蘭病院の副院長、院長として勤められた二十年間の実績と、検疫業務に長期間努力された功労が認められて、勲章を受けられたことは、まことに目出度いことで、私後輩として、又先生の跡を継いだ者として、そして半世紀の永い間昵懇を願っていた者として心からなる祝福を贈るものである。大柄な

阿部さんを見るからに柔道の猛者であり旧制二高時代は選手として活躍された。豪放磊落、スケールの大きな方であり、部下に對しては鷹揚寛大な心の持ち主であった。なにせ夫々個性のある一匹狼的なさむらい医師十数人がぞろりと揃っていた医局であったので、その統率指導も並大抵のことではなかったろうと、医長時代には勝手な熱を吹きまくっていた自分が、院長になってみて初めてその苦悩をいやという程思い知らされたのであった。

あの時代のことを今はなつかしく偲びつつ、阿部先生の余生安穩なれと祈るものである。

樂其生保其寿

大吉 清

「樂其生保其寿」 僕の大好きな言葉です。

この掛軸を床間にかけて三十年近くになります。「夫々の人生を楽しく過し、夫々の天寿を全うしよう」と僕なりに解釈しています。常日頃、僕がこの様な人生をおく

りたいと思っっているの、少くとも、僕のまわりの人々、一家族、従業員、患者さんにも、そうあってほしいと念願しています。

何時頃からこんな気持になったのだろうか。永年、医師生活を送っていると、仲々良くなれない人のみが頭に残って来ます。医師として一〇〇人の人を治療して一人の不成功例をつくると、九九％成功とはいえず、一人の不成功例にとっては一〇〇％の失敗ということになります。医師とはきびしい職業と思います。

四十才代で孫が出来てお爺いちゃんになりました。真実に孫は可愛いです。孫にも幸福な人生がおくられることを祈る様になります。股関節の乳児検診をして、先天性股脱や臼蓋形成不全を発見した時、自分の孫と同じ様に、一日も早く正常な股関節へと導いてやりたい気持になります。

少くとも、独立歩行時には普通の子供さと同じようにしてあげたいと思います。不成功例の累積と孫の出生で、こんな気持になったのだらうと思います。

医師生活を三十五年間もすごしますと、専門の整形外科でも、少し得意の疾患と不得意の疾患が出来ます。整形外科的に不得意の疾患に対し、その疾患に対してもっともすぐれている施設に紹介していま

す。又、医師が病気をなおすとはもっての外と思うようになって来ました。医師は素人より少し経験があるから、患者さん自身の自然治癒へのアドバイザーにすぎないと思われ、病気だけをみても良くなり、多くの人がいっているように、病人をみて、其の人にとってもっとも良いと思われる方法を考えて、導いてあげるのが医師ではなからうかと思っています。いづれにしても人生は一回です。皆、夫々人生を楽しみおくり、天寿を全うしましょう。

(五十九年五月三十一日記)

自殺か 他殺か

湊 武雄

もう約二十三年前になるが、午後十一時半頃一人の男が飛びこんできて、うちの女房が死んだと言った。その頃はまだ当直医だったので断ることも出来ず、すぐ連れてくるというので午前〇時頃まで待っていた。そうすると、肩にかついで四十五kgの小肥りの女を寝台の上にのせた。寝台はぐっしりと水にぬれ、女は瞳孔を開いてすでに死んでいた。

坂道とはいってもせいぜい二、三十分で来れる筈である。死人を医院に残して男は去った。三十分ぐらいいして亦やってきた。一月の寒い時期なのでストーブをたいて部屋を暖め、強心剤や人工呼吸、心臓マッサージをしたが息をふきかえさない。直に警察に連絡し刑事の立合いの下で検案し、男と自宅におもむいたが、すでに食器や食物類を水できれいに洗った後なので毒物は検出されなかった。

後に思うと、死体を置いて三十分の間に一旦家に帰り、食器類を洗ってから医院に来たもので、警察が行った時はすでにおそかったわけである。

私の推理では、夫婦喧嘩をした後、女に毒物をのませてから、あまり重いので途中雪の上に寝かせて休み医院にきたものだから、二、三十分の時間を小一時間かかったのだらう。私は以前にも青酸カリによる自殺体を三人程診ているので、この女も青酸カリだと判断していたのである。

青酸化合物による死人は、顔面が鮮紅色になり苦悶の様子はなく、全く安らかな死相を呈するものである。

男はそれから三ヶ月すると再婚している結局、男は女が出来、女房が邪魔になり青酸性毒物によって殺したのであらう。現在であれば少しの飲食物からでも毒物の検出

は出来たのであろうが、二十三年前はそうした面倒な手続きはせず、目で診て警察官も断定したのであろう。

男は鍛冶工だから容易に青酸カリが手に入ったのであろう。青酸カリによる死は服用後一位でやってくるものである。

追記――目下右手の三、四、五指に軽度の麻痺があり現在治療が続けている。乱文乱筆をおゆるし下さい（昭和58年）

「皇居参観記」

大久保 洋 平

昭和五十九年五月二日の大安吉日。北大医学部一期生「物語者の追善法要」が終るともう昼近く、浅草観音堂の境内には、夜来の雨が嘘の様な眩しい春の日差しがいつぱいに照りつけていた。

ここで参列者二十二人のうち三人が次回の再会を約束して別れ、十九人の一行がバスで東京見物に出発する事に相成った。

一行の顔ぶれは四名が今もお元気に活躍中の一期生の先生で、残りが夫人あるいは故人の家族である。室蘭からは、故斎藤義太郎先生の奥様が川崎在住の御子息吾朗氏と同行されていた。日鉄病院（現新日鉄病

院）院長の故豊福先生の奥様とお二人のお子様も見えられていて、戦時中や敗戦直後の知利別の話などをしながら暫くバスを待つ。

この日の日程は、観音さんでの追善供養のあと、皇居参観、高輪泉岳寺のお詣り、そして夜は横浜中華街で懇親会をして新宿に戻って解散という将に明治生れの幹事先生の企画らしい行程である。

幹事の先生は、ご存知の方も多いと思うが、「東京フラテ会」会長をつとめておられる宮川知平先生である。僕は初参加だが既に、二回も追善供養を催して頂き、その度にお誘いがあったので、何事三度目の今年はどうしても顔を出さねば失礼と思って上京した。はとバスで浅草見物したのが学生の時だったから、もう三十年近くも前になる。観音さんや仲見世は、記憶とあまり変ってはいなかったが、バスの左右は皆同じ様なコンクリートの建物がぎっしりで、どっちに走っているのか見当もつかないが、道路標識に、「馬喰町」「伝馬町」「人形町」など銭形平次で憶えた町が、次々と登場するので退屈しないうちに、大手町、丸の内に入り、右手に一段と新緑の鮮かな皇居の森が見えてきた。

バスは外苑を大きく半周して「桔梗門」と言う所に着いた。直ぐ衛門の詰所から二

人の皇宮警察官が近づいてきて、宮川先生旅行社の添乗員と話し合う。話が長引いている様子。既に参観者の名簿を提出してあると聞いていたのに、矢張り皇居に立ち入るとなると面倒なものの様だ。宮川先生の余程の御尽力があったに違いない。

やがて、バスに戻った添乗員氏から説明があり、これから宮内庁の係官がこちらへ来られるので、それまで待機して欲しい、但し、このバスはこの場所に駐車出来ない、ので、廻送するから下車して待つ様に、との事で全員がバスを降りた。皇居内では小用を足す事が出来ないから、比処のトイレで済ませる事と注意があり、ひと先ず全員がトイレに向う。お濠端で写真を撮ったり近くを歩きまわって三十分過ぎても係官は現れず、皆いらいらしてきた。今係官がこちらへ向ったと言う。衛門には、七、八人の警官が居て出入りする自動車が通ると、門を開けたり閉めたりしているが、せいぜい二人位がこの役で、他は何んの用もなく煙草をくわえ乍ら、詰所内で雑談でもしている様子であった。待つこと一時間、やっと黒い乗用車が出て来て「お待ちせしました」と係官が現れた。そして又、参観者に変更がないかと話し合う。

この頃から、上空に黒い雲が拡がり急に寒くなって来た。二度目のトイレに行く人

も何人かいる。その間に別なバスが到着して十数人の団体が降り、その人達の方が先に整列した。アベックの外人観光客が近づいて来て、我々の一行に加えて欲しいと頼んでいる様だが係官に断られて何度も振り返り乍ら去って行った。僕達もきちんと二列に並んで、ようやく門の中に入れて頂いた。初めて見る皇居内である。

「桔梗門」を入れて直ぐ右側の古い建物に案内されたが、この頃からとうとう雨が降り出した。「窓明館」と言うのだっ広い建物で、長い机と粗末な椅子が並べられている。ここで暫くお待ちときた。火の気が欲しい程肌寒い。煙草を吸ったり壁のパネルを見たり、意外な事に売店があって、宮内庁御用達の黒書きされたお菓子やしおり地図、絵葉書などのお土産品が並べられているが、一行が買ったのは、五百円のビニール傘や合羽であった。僕も若しやと朝に傘を持って出たのに、昼前から青空が拡がっていたので、先程のバスを降りる時に置いてきてしまい、仕方なく傘を買った。

皆んなが元の椅子に戻った頃、制服制帽のオジサンが正面に直立して、マイクを口に当てて、「これからご案内する皇居は……」とスライドを見せ、「行程凡そ三・五キロ所要時間一時間半、途中に三ヶ所、坂があるので気分の悪い方、歩行難儀な方

は無理をせず、此の建物内で休み乍ら皆さんのお戻りをお待ち下さい。念の為」と皇居のあらましなるものを十五分掛けて終った。雨こそ凌げるものの、こんな寒い所で一時間も待ちぼうけを喰わされるのなら何んの皇居見物か、「みんな行きましよう」と言ったものの脚に自信が無いからと幾人かは此処で待つ事にした。斎藤夫人もリウマチなのでと息子さんと残る事になったこの「窓明館」は参観者と奉仕団体の休憩室に当てられているそうだ。

傘をさしたり合羽を羽織ってぞろぞろとオジサンの後に続く。なるべく道路の中央を歩くように、二、三列の一团となって進む様にと再三注意される。団体の後尾に宮内庁係官、その更に後に皇宮警察官がついて来る。窓明館の真向いが皇宮警察本部、この本部に向って左手の舗装道路を奥に進む。左側は皇居を囲む石垣と松林が長く続いている。

広い通りに出てやや左に折れると見上げる程の高い石垣の上に、白壁の大きな櫓があって「富士見櫓」と説明された。桔梗門で待っている時に、松の樹間から見えていたあの櫓かも知れない。最初の登り坂にかかるが大した勾配でない。この坂を左手に下ると突き当りに、大きな門が閉ざされたままになっているが、これが坂下門とのこ

と。

真直ぐに坂を登りきるとやたら大きな建物が見えてきた。テレビでお目に掛る宮殿である。七棟が連なる建物の中で、最も大きな長和殿の前庭には、白い大判の石畳が敷き詰められていて、ブロンズの屋根、ベージュの壁、えび茶色の柱の宮殿が実によく映えて見える。約二万人が入れるそうで、この地下は全て駐車場と説明されたが皇居にそれ程の車が来る訳がないので、或いは万一の際の避難壕かも知れないと勘繰ってみた。長和殿中央には、つい数日前の天皇誕生日の参賀に用意された例のガラス張りのお立台が、まだ備付けられたままになっていた。

この二万人もが入れる広場に、我々ともう一団の僅か四十人足らずが中央に並んで、両足を揃えて背筋をピンと伸ばしてマイクを口にあて、白手袋の右手をかざす例のオジサンの有難い説明を聴く。宮殿も見事だが、庭の植込みが素晴らしい。殊に、前庭の端にあるさざんかの植込みは、丈が凡そ一米二十・三十程位で、きれいに水平に剪定されていて、大きさは五、六十坪の長方形の緑の大テーブルのようだ。近づいてみると木々の間隔が五十程位で密生していて、一体この剪定をどの様にしてやるのか疑問に思っ、宮内庁の係官に訊ねてみ

たら、庭師が狭い樹間に立って切り揃えるので、庭師の首の高さよりも幾分低い所で揃えているとのことである。

かなり離れて二つのまんじゅう型の築山が見えるが、色々な樹々で彩られていて迷彩服の模様になつてくつりだ。夫々十二種の寄木植で亀の甲羅を型取ったものと説明された。四季を通じて葉の色が変わるのだから、いつ眺めてもきつと美しいことだろう。我々が進んで来たのとは、丁度反対側が二重橋に通じる道で、その先が現在の皇居正門である。一般参賀では正門から入って、二重橋を渡ってこの広場に来ることになる。この新宮殿の辺りが旧西丸であったそうである。

宮殿から少し戻って左手の宮内庁の前から左に曲り奥へ進む。森あり林あり、池や濠そして石垣。外からは皇居はすっかり松に囲まれていて、櫓や石垣しか見えないのに、内からは意外に外の景色がよく見えるまさに垣間見ることが出来るのだ。

左側に下道灌濠をみるあたりに来ると、濠の向うは一層深い森である。この中に皇后さまの養蚕所、そして右手の奥に、陛下のお住い「吹上御所」があると聞く。右に折れて濠にかかる小さい石橋を渡る。西枯橋（にしのはねばし）と言って、江戸城の頃は非常の際に内側に跳ね上げて、渡られ

ない様に仕掛けされた木橋であったそうである。

橋を渡るとこれまでで最も急な坂道で、右に左に折れながら登って行く。城跡の大きな高い石垣が続いている。石には三や井△など刻印されたものがあって、これらは石を献上した大名や藩の紋章、あるいは藩印とのことである。

最も高い広場に出た。「東御苑」と呼ばれる庭になっていて江戸城本丸跡とのこと前方がゆつくりと下っていて、正面に丸の内のビルが見渡せる。今、我々が立っている辺りが昔、大奥であった所で、その先に一本の立派な松がある辺りが中奥、あの有名な松の廊下もそこにあった由。「普通の大名はあそこまで。こちらにいま居られる皆さんは、言わば上位のお方達」と冗談をオジサンが真面目に言った。広場の最も奥にまた一段と高く石垣が組まれていて、昔は最上段に金色の鯨ほこを頂く五層の江戸城天守閣が聳えていたそうであるが、明暦三年（一六五七年）の火災で焼失以来、幕府には既に再建する財力がなく、石垣だけが当時のままと説明された。

雨もあがつて再び青空となる。気がついてみると、皇居の庭には草花や花壇がなく全て樹木が植っていて、また外来の木々も無い様に思われた。今年は東京も寒かった

ためか、この時季に、椿、八重桜、つつじさつき、木蓮が花をつけている。そして、これだけ森に囲まれているのに、鳥の姿はなく囀も聞えない。「では次へ、ハイどうぞ」と案内するオジサンの声と一行の歩く音、話声、時折通る自動車の音しかない。別な道から東御苑を下ると、皇后さまの還歴を記念して建立されたモザイクタイル外壁の桃華楽堂、宮内庁楽部、書陵部などの建物があって、この一角だけは少し建て混んでいると思われた。

急な汐見坂を降りてくると平地になる。大手門に近いこの二の丸庭園の一郭に都道府県の木が植えられていて、その中にライラックの花を見つけた。

見るからに古めかしい木造平屋の大きい建物があった。「百人番所」と言って江戸城警備の侍詰所だったそうで附近にも二、三のもう少し小さい同心番所などがあってかつては、大手門から登城した大名達は、これらの番所で幾度も検問を受けて「下乗」と大書きされた石柱の立つ狭い門の所で乗物を降りて、これから先は、徒歩で参上したそうである。

間もなくスタート地点の「窓明館」が見えてきた。ギーと音がしたので振り返ると今まで一行の後尾に同行していた警官が、いつの間にか現れていたもう一人の警官と

で、しっかりと頑丈な鉄門を閉ざした所であった。

われわれ一同、初めて見た皇居に感激しながら「桔梗門」を出たところで参観のおしまいとなった。

おたまじやくしの生いたち

安斎哲郎

前号音楽馬鹿の記のあとを受けて、こんどは楽譜の歴史を書けという編集部命令である。たぶんこれは編集委員会の総意などではなく、某編集子の個人的希望だろうと思うので、蛙の子の生い立ちなどに興味のない方には申しわけないし、図表をあまり使えない学術論文ほど書きにくいものはないし、よって講釈とも漫談ともつかないものでお時間拝借……

音を図形化して視覚的に表現するのが楽譜だが、大別してこれにはアナログ図形とデジタル図形とがある。一見ミミズかアラビヤ文字風の曲線でメロディを表現する江差追分の譜は前者で、ヨーロッパでも中世のグレゴリオ聖歌で四線譜が制定される前には似たような記譜法があった。一方、

一二三……斗為巾の箏曲の譜やハーモニカの数字譜はデジタル図形である。現在の洋楽の楽譜、俗にいわゆるオタマジャクシはその両方の長所を併せもっていて、大変合理的にできている。もっとも、合理的とはいってもむろん完全なものではなく、不完全なるが故に音楽的な寛容度（ラチチュード）が広く、個性表現の余地があるのであって、もし楽譜が完璧なものだったら、猫が鍵盤を踏もうが名人が演奏しようが全く「楽譜通り」となって、音楽は面白くもなんともなくなってしまう筈である。

五線にオタマジャクシという現在の楽譜の書き方が定着したのはたぶん十六世紀頃であろう。その発明者が誰かということは全くわかっていない、というよりもむしろ自然発生的なもので、なにぶんルネッサンスというものは束縛を嫌い自由を愛する精神が原動力だから、音楽家もめいめい勝手にいろいろな方法を考えて使っているうちに、いつとはなしに次第に今の形に定着していったのである。中世の教会音楽のうちグレゴリオ聖歌というのは、これはルネッサンスの精神とは正反対の厳格な規則づくめ、束縛いっぱい、ラチチュードゼロの音楽でいわばお経の文句、西洋版「声明」（しょうみょう）である。パリの左岸の古本屋台などで売っている偽羊皮紙の「古楽

譜」がその譜で、五線ではなく四線で、オタマジャクシの代りにへブライ文字に似た四角い音符が書いてある。これは音の高さのメモのようなもので、音の長さ、強さ、リズムなどが表現できないため、ルネッサンス期になってこれを改良した定量記譜法が発明された。現在の五線譜はそれが変化発達したもののだが、四線譜の長所と後に述べるタブラチュアの長所とをたくみに取りまぜたことが成功の秘訣であった。その変化の過程で一つの大発明は小節縦線を発明することによって音の高さ、長さだけでなく、リズムをも表現できるようにしたこと、音の強弱や表情、曲の速さ（テンポ）やその変化をも記号として書き入れるようにしたこと、これができるようになったのは十六世紀から十八世紀に至るいわゆるバロック音楽の時代のことである。それでも、バロック期には数字付低音（フィギュアド・ベース）というのがあって、和音の種類を示す数字を見ながら演奏者が即興的に音を積み重ねながら弾く方法があった。いわば現代のギターのコードネームと似たような機能をもっていたのであるが、ビバルディ、バッハの頃から次第にその風習がうすれて、十九世紀になると完全に姿を消してしまった。

五線譜の特徴は音楽の音そのものを符号

化したものであるから、たとえば声楽でも器楽でも、また器楽ならどんな楽器でも、共通な符号系列という強みがある。だからたとえば同じ譜をみながらさまざまな楽器が同じ音で演奏することもできるし、多声音楽の時は五線譜を何段か重ねて一人の指揮者が合奏や合唱を指揮することもできる。現代の大編成のオーケストラでは二十段三十段という五線譜が同時進行することになる。ところが、ギターやリュートなどでは音そのものを符号化するよりも演奏法を符号化した方が便利なことがある。五線の上張りついたオタマジャクシを見て、第何弦の第何指と条件反射的に頭の中で翻訳するよりも、弦と指とを直接画像化した方が弾き易いのである。(但し調弦が誤っていたり、演奏中に弦がゆるんだりすると全く別の音になってしまう。) いわばハーモニカの数字譜(これはジャン・ジャック・ルソーの発明といわれる)や箏曲の譜のようなもので、これをタブラチュアと呼んで、ルネッサンス期のリュート音楽ではかなり愛用された。

五線譜そのものはバロックの中期頃にはば発達の極限まで来たが、ハイドン、モーツァルトの頃になると強弱、表情などの記号化がさらに発達し、多様化していった、ロ

マン派の時代から二十世紀前半までにもう楽譜の進化は行くところまで行きついた感じである。しかし音楽というものは芸術であるから、主観的な要素が入るのは当然でたとえば強弱記号にしても、音楽物理学的な強弱と、音楽の流れの中で聴衆が感ずる強さとは全然一致しないし、その感覚は人によってちがう。また休止符(日本語で間「ま」に相当する)の長さ、リズムの微妙な感じなどはとも五線譜で表現することはできない。それが冒頭に述べたラチチュードということである。一時「強く」「弱く」などの記号は無意味だといって、音の強さを一から十までの数字で表現しようと試みたり、デシベルで表現しようとした屁理屈好きな作曲家もいたが、その結果は無惨なものであった。また最近ではピアノの鍵盤上の位置をそのままアナログ化して、つまり音を一旦地理的なものに置き換えてアナログ符号としようとする試み(クラヴァールスクリボ)もあるが、かえって複雑で、使いなれた五線譜の人氣は容易に忘れるわけにはゆかないようである。

最近の前衛音楽の作曲家の中には、演奏者の即興性を重要視するあまりオタマジャクシを全廃してしまつて、何やら意味のない抽象的な図形を描いて、それを見ながら心に浮んだイメージを勝手に音にしる、と

いう無責任なグラフィック・スコアなるものを試みる人もいる。偶然性の中に新しい美を発見したいという意欲はわからぬではないが、私には面白くもなんともない。エッセ芸術的ナルシズムといったら叱られるだろう。

楽譜の頭に書いてあるイタリー語の指定には速度指定と表情指定とがある。たとえばアレグロ・コン・ブリオは「速く、元氣よく」という意味だし、アンダンテ・マエストーゾは「ゆっくりと、莊重に」という意味である。音楽のリズムは胎児が子宮の中でできた母の動脈音が原型だというから速度記号は平均的心拍数毎分八十が標準だという説がある。しかしアンダンテとは「歩きながら」の意味だから、普通の脚の長さの人が普通に歩く速さが標準なのかもしれない。脈拍や脚の長さは人によって違うから、作曲者の意図が正しく伝えられないことがあるというので、ベートーヴェンは友人メルツェルの発明したメトロノームを使って全作品の速度を指定しようと試みたことがあるが、結局この試みは途中で放棄してしまつた。これなど、芸術は心であつて、機械的な正確さでは芸術はつくれないという証左であらうか。もっともベートーヴェンの使つたメトロノームはだいたい不正確だったらしく、彼の指定通りではほと

んど演奏不能という曲もある。現在のメトロノームは水晶時計の原理を使っているから限りなく正確に近い。

表情記号の方は機械にまかせるわけにはゆかないので、今でも昔のままのイタリア語が使われる。しかしシューマンは断固としてドイツ語しか使わなかったし、日本では日本語しか使わない人もいる。ドイツ語、英語、日本語はともかく、ロシア語やハンガリー語などで書かれるとわれわれは困ってしまう。なぜイタリア語なのかというと五線譜の発祥の時期がイタリア・ルネッサンス期だったからで、音楽的にはイタリア語が国際語なのである。最近はコンピュータで音楽を作るのが流行しはじめているから、イタリア語に代ってコボルだのベージックだのが国際音楽用語として幅をきかせる時が来るのだろうか。ベートーヴェンがきいたら何というだろうか。

〔蛇足〕よく「楽譜が読めないから音楽がわからない」という人がいるが、これは逆である。音楽を言語にたとえれば楽譜は文字で、文字が読めない子供でも達者に母国語をしゃべると同じく、かのサッチモのように、オタマジャクシの読めない大音楽家さえいる。楽譜を知らなければ音楽がわからないと思うのは、文字を先に覚えてから言葉を読むというのと同じく、かえっ

て無謀なのである。だから皆さん、明日から一緒に音楽を始めませんか。

全道ドクターズゴルフ大会

に出場して

斉藤成樹

昨年は釧路で開催された大会に出場し、20年ぶりに釧路の地を踏み、滅多にプレイ出来ない鶴居(東)、幌呂(西)コースでゴルフを楽しみました。また、同門の先輩後輩と久しぶりに楽しく歓談し、余り出場した事のない大会の良さを経験しました。今年と比較的近い旭川であり、旭川国際愛別コースのプレイも楽しみにしていたので一日早く七月十三日夜遅く旭川に入りました。駅には雨の中を後輩のT君らが出迎へに来ていた。ホテルのチェックインをしてその足で夜の街へ出て歓迎会を受ける。久しぶりの旭川市街の発展と変貌に目を見張る。さしずめリトル札幌の観があった。

翌朝は前夜の雨もあがり、旭川国際愛別コースで第1ラウンド開始す。快晴であるが蒸し暑く、室蘭のガス冷えに慣れた身体

には全くこたえる。しかし、白樺、落葉松にセバレイトされたコースは新鮮で期待していた以上に美しく、クラブハウスから眺望される残雪の大雪連峰は雄大で素晴らしかった。夜は先輩後輩を交えた歓迎会の第2ラウンドが夜半まで続き、五時間の睡眠をどうにか確保する。

翌十五日六時、本番の大雪山コースへ向け出発。コンペ特有のあわただしい雰囲気の中で受付登録を済ませ、食堂で朝食をとる。なつかしい顔があちこちに見え、挨拶の声も一段と親しみを増している。

室蘭からの出場者は東コース壮年、シニア組。原田会長、竹内、鴨井、中野、車田の諸先生。西コースは青年組で昭和七年以降の若者、斉藤、菊入、木下の市立病院の五十台トリオ。

初めての大雪山カントリークラブ、西コース、一番ティグラウンドに立つ(パートナ一三名は旭医)。一望すると昨日の愛別コースに比較して樹木の少なさが目につく。赤い顔でのドライバーは見事にチョロ。旭川勢に励まされ、どうにかパーで上る。気分を良くしたのも束の間、気温が上昇し湿度も高く、今年初めて経験する蒸し暑さである。コースは打ち上げ、打ち下ろし、砲台グリーン、だらだらした上り坂が多く、木陰が少ない。初めは和気あいあいだった

が次第に口数も少なくなり、砂漠ならぬコースを唯、水を求めて歩く状態である。多分、感覚温度としては30℃はあるのだから顔を上げると眩暈がするので景色は眺めず硬いフェアウェイを歩きながら白鳥コースの軟らかなフェアウェイを思い出す。上半身からベルトまで汗でぐしょぐしょとなりあえぎながらも何とか完走する。

そんな訳でコースの長所より短所ばかり目につく結果となりました。因みにスコアは45、47、92、ネット76でした。ホールアウトして飲んだカンピールの味は格別でしたが生ジョッキーならどんなに美味しかろうと思った(多くの先生方の一致した意見でした)。

大雪山コースでの大会は暑さにバテ、悪戦苦闘の連続でしたが、ゴルフ以外の喜びと参加して意義のある大会である事は諸先生の胸に抱かれていたものと思います。

一番多忙である原田会長が毎年のように出席されている由、室蘭ドクターズの諸先生も今後は機会を作り出席しようではありませんか。感想と希望を書き拙文を終わります。最後になりましたが一致団結して大会運営を行った旭川医師会の諸先生に心から御礼申し上げます。

ゴルフ談議

私のパッティング遍歴

(Ⅲ)

久 安 正 道

(四) ショートパットーなぜ入らないか

この標題には補足が必要のようです。ショートパットとは何m以内かという点と、短いパットは当然入りやすいのですから「なぜミスをする必要があるのか」と言った方がよりの確かもしれないということであるプロの書いたパッティングの本を読んでもおりますと最後の項目で「5m以下のショートパットは真つすぐ狙って強目に打つこと」とありました。5mをショートパットというプロの感覚にはとてもついていけないので私なりにこの距離を設定しますと比較的入る可能性があると思われる2m、拡大解釈して3m以内をショートパットとするのが妥当と考えています。

一般ゴルフファークとして、このショートパットは特に重要であるというより、シ

ョートパットがパッティングのすべてといっても過言でないと思われます。4m或は5m以上の距離からの1パットは1ラウンドで平均一本あるかどうかというのが現実ですから逆にこの距離からは無理に1パットを狙う必要はないといえます。

プロにもショートパットミスがあります前回ワールドレディースでのことを述べましたがもう一つ非常に興味深く心に残ったことがあります。それは一九八三年のハワイオープンのことです。青木功が最終ホール第3打を120ヤードのラフからP・ウェッジで見事カップインしてイーグル、奇蹟の逆転優勝として大変な話題を提供してくれたわけですが、私が面白いと思ったのは彼のフライングショットではなくて、18番グリーンのことなのです。何の変哲もなさそうな平坦で大きなこのグリーンは実は速くてもしかも微妙に左右に切れる最大級に難しい状態であったようです。この時のゲームの状況は次の様なものでした。最終組で青木とベン・クレンショーは激しく首位を争っていましたが17番終了の時点でベンは一歩後退のマイナス17、青木はマイナス18でトップ、一組前には同じくマイナス18でジャック・レナーがいました。18番539ヤードのロングホールでレナーは2オン、ピン横2m弱に寄っていました。同じ組のシンブ

ソンは1mのバーディバット、ジェーコブソンは1.5mのバーバットを残していました。青木は第1打を右の浅いラフに入れましたが、2オンの可能性がある第2打をレナーの組がグリーン上にいるのに打ってしまいました。結果は左ラフのギャラリーの中に打ち込んだわけです。さてグリーン上ではレナーより先にジェーコブソン、次にシンプソンが打ちましたが2人共失敗、レナーもイーグルバットがカップを舐めながら入らずしかしマイナス19となって後続の青木のショット待ちという状態でした。勿論結果論ですが、バットの名手といわれている青木が、2オンせず、この難かしいグリーンでバットをしなかったことが優勝の原因とも思われて強く印象に残っているわけです。当時何種類かのゴルフ雑誌を見ましたがこのグリーンのことを書いた記事はありませんでした。兎も角、グリーンによつては世界のトッププロもこの距離をミスすることがあるわけです。

プロのバットはさておきましてアベレージゴルファーがショートバット特に1.5m以内のミスの原因を分析すると大体次の様なことになりました。

(1)距離の面から見ますとショートする事が多いのですが短い距離を何故ショートするのかその原因。

① オーバーするのが恐いという潜在意識的なものがあつて強く打てない。
② いわゆるヘッドアップ、打ち急ぐために視線と共に頭がカップの方向に動く、逆にゆっくりバックスイングすると視線がバターヘッドと共に右の方に動く、共にスイートスポットを外して思った距離が出ない。

③ ラインを読むことに集中して打つタイミングを崩してしまふ。

④ カップの周縁の芝の盛り上りを失念或は気がつかない。

又、オーバーするのは、

① 距離の感覚を把握していない。

② 前のバットが短かすぎたときには打ち過ぎになりやすい。

(2) 方向が狂う原因は

① フック或はスライスラインを読み過ぎる場合が多い。

② 弱目に打つために芝の影響をうけやすい。

③ 直つすぐなラインを真つすぐ打ったつもりが外れるのは要するに打ち方が悪い、基本からしっかり練習が必要ということになります。

以上ですが、これらのことは何もショットバットに限ったことではなく、すべてのバットミスの原因と共通の点が大部分です。

結局、入って当然、入れなければならぬという心理作用がタイミングを狂わせたりヘッドアップを誘う大きな原因となるわけですから、1m或は2mをしっかりと打ち分けられる距離の感覚と、意識して真つすぐ打てる技術を練習により掴みとって自信を持つことがショートバット征服のポイントであると思います。

(五) プロの書いた指導書—プロとの感覚のギャップを如何に修正するか

バットの感じがおかしくなると誰か上手そうな人に教えを乞ふことになります。答える方も仲々大変で、その人の欠点を指摘してアドバイスらしいことは一応伝えられるとして納得のいく理論的裏づけは一口では説明出来ないし結局ワンポイント回答という事になります。どうしても納得のいく説明がほしいのでプロの指導書を読みます。青木功、杉原、杉本、矢部、小松原、村上大古清、更にボブ・トスキ、ニクラウス、ワトソン、ヒューバートグリーン等々、みんなその道の大家です。説得力もあり一読して分かった様な気にさせられることもあります。併しどうしても理解出来ないことも幾つかあります。それはプロと一般ゴルファーとの技術の差が実は比較にならないく

らい大きいことが原因で、それに附随して感覚の段差も非常に大きいということですが、プロにとって説明を要しない様な当然のことがアマには重要なポイントであることもあり得るわけです。

小針春芳プロは「猛烈に入り出すバットの極意」と題して次の様に述べています。「距離を決めるのは“出”すなわち初速である。5mのバットでも実際はスパットまでの距離のミロガリしか計算していない。例えば30cm先のスパットまでにボールを何回転させるかで距離を決めるのである、一般アマチュアはそこまで計算出来ないだろうが、少なくともスパットまでの初速で距離を測れるようになれば大きな狂いも出なくなる。……」とあります。初速が距離を決めるというのは分かる様な気もしますがスパットまでのボールの回転数をどの様に数えるか理解出来そうにありません。プロが練習に練習を重ね長い時間の中で得た微妙なタッチ、距離に対応する力加減などを不特定なアマに理解させようというのも実は仲々困難な仕事のようなのです。

要するにプロの指導書に示されている沢山のハイレベルな項目を自分なりに整理して練習方針を決めなければならぬ様です。何しろ狙えといわれても狙ったところに真つすぐ行かないのがアマの悩みであり、3

mの逆目、やや強目に打てといわれても基準の3mを正確に打てなければ強目も弱目もないというわけです。

(六) バットの方程式―練習の一つの

示針

バッティングの冷酷な仕打を幾度か受けるとバッター恐怖症になってバットの無いゴルフをしたいなどと思ったりします。一部の人は真剣にバットの練習をしようと決心しそのうちの更に一部の人が実際に練習にとりかかります。さて練習グリーンでカッブを狙って打ってみると思ったよりよく入ります。実戦では仲々入らない距離も割合よく入ったりします。面白くも何ともないわけです。練習のポイント、方法等を確立しておかないから単なる時間つぶしの球転がしになりかねないわけです。大部分の人がこの時点で断念し、ごく一部の人が自分自身の課題を考えて練習路線を進むわけですが、プロではないので充分な時間があろう筈がありません、何とか能率的な練習をと暗中模索の状態が続くこととなります。中途半端な練習は何もしないのと同じか、逆にかえっておかしくなったりします。練習をするからには何かを掴むまでやるべきでその何かが正しいものであればそれでやっ

と一歩前進というわけです。

アマのA氏は「バッティング教室」なるものを開講していますが、アマのための練習の課程を設定していますので、そのテキストの一部を紹介します。

ショートバットでは特に正確な方向が要求されます。では方向が狂う原因は何か、次の点が考えられます。

- (1) 読み方の誤り。
- (2) 狙い方の間違い―アドレスで既にフェースの向きが狂っている。
- (3) インパクトでのフェースのブレ。
- ① 打ち方の誤り。
- ② スイートスポットを外したために打った衝撃でフェースの向きが狂う。
- (4) スイングの方向の誤り―アウトサイドイン又はインサイドアウトに振った場合。

このうち(1)・(2)は慎重にすることにより防ぐことは可能であるし、又(4)は特にショートバットでは極端なカット打ちでない限り問題はないとされています。正確にはカット打ちによるボールのブレはフェースのブレの4/5といわれます。即ち仮りにフェースが8°ブレてヒットするとボールも8°ブレるわけですが、スイングが8°のカット打ちの場合ボールのブレは2°であるということ

です。

問題は③・①です。僅か数10cm、スタンスの幅ぐらいのスイングの間にフェースの向きが狂ってうわけです。このフェースのブレをチェックするのが左のグリップ正確には左の手関節です。アマのバッティングでは多少とも手首を使って打つ人が多いのですが、インパクトで正しく左手関節をアドレスの状態に戻すことが出来ればフェースのブレは無いというわけです。ペンデュラムでも同様ですがこの場合は手関節と同時に両肩の振りがラインと平行であることがポイントですから多少むつかしい面もある様です。方向⇨フェースの向き⇨左手関節、この図式を常に念頭において、左手関節に意識を集中してボールを打つことが特にショートパットの練習の最重要眼目である。

というのがA氏の解説です。この様な至極当然、バッティングのイロハの様な事柄は指導書には記載されていないか軽く書き流されていることが多い様です。アマならではの着眼点で我々には理解しやすいものであると思われます。

「距離感をつかむ」は次回にいたします。

(続く)

― グループ紹介 ―

室蘭市医師会

ゴルフクラブの歩み

遠藤 秀雄

室蘭市医師会にゴルフクラブが設立されて十五年になるうとしています。当時の状況やこれまでの経過が記憶の中から次第に薄らいで来ていますので、残されている資料の中から、その歴史を簡単に振り返ってみたいと思います。

昭和四十五年三月二十日に、会員数四十五名で発足し、役員は会長平間章先生、幹事長佐藤善弘先生、幹事国本、鈴木、木戸実、広瀬、三好先生でしたが、四月十七日平間先生が死去され会長に佐藤先生が推挙されました。五月十七日に第一回目のコンペが白鳥コースで行われ、鈴木久雄先生が優勝しています。

昭和四十六年四月には大沢プロの指導でゴルフビデオレッスンが行われ、技術向上の意気盛んであったことがしのべれます。この年は九回のコンペが行われ、コースも

白鳥、洞爺湖、千才空港、大沼、樽前と転戦しています。この他に六月二十日には、小樽、函館、室蘭の医師会で、三大良港戦が行われ、室蘭から十二名の参加がありました。会員数は五十二名になっています。

昭和四十七年三月、竹田プロによるゴルフレッスン教室が持たれ、大西先生をはじめ二十五名が受講しています。この年から室医と苦医親善対抗戦がはじまり、第一回は白鳥コースで室蘭、第二回は樽前コースで苦小牧が団体優勝をしています。またブルック対抗全道ドクターズゴルフ競技会で日胆地区が二チームにふえ、西部地区を代表して、三好、木戸実、小田切、西原、木戸就一郎、遠藤、小森、和田(日赤)の八選手が参加し、十九チーム中十七位で、他地区との実力の差を思い知らされました。七月からは、昭和四十九年に室蘭で開催の決まった北海道ドクターズゴルフ大会の準備が始まっています。

昭和四十八年四月室医ゴルフクラブ総会で副会長に本庄晋一先生、幹事には三好、鈴木、木戸実、種田、遠藤先生が決まり、年会費が三千円から、五千円にアップしました。七月十五日北海道ドクターズゴルフ大会が苦小牧で開催され、翌年の下見をかねて、室蘭から二十九名が参加しています。昭和四十九年六月十六日に第九回北海道

ドクターズゴルフ大会が、室医の手で白鳥コースで行われ、会員の情熱と精力的な準備の甲斐があり、二四九名の参加を得て、順調に盛大に行われました。懇親会はクラブハウスで行われ、一一六名の申し込みがあったのですが、実数は八十一名でした。表彰式では当医師会からも数人の先生が入賞していますが、その記録が手元に無いので省略します。

昭和五十年年度のビッグニュースは、体育の日に行われた三師会ゴルフコンペで、山本健三郎先生がホールインワンの快挙をとげられたことでしょう。大分お高かくついたのであります。

昭和五十一年四月に名幹事長役を勤めてこられた三好晃二先生が花畔町に転出されたため、当クラブも退会され、その後任として遠藤が就任し、事務局も三好医院から恵愛病院に移りました。会員数は七十二名となりました。又四年間続いた室・苦戦は開催地によって対戦人数に差があり過ぎるため中止することとなりました。

昭和五十二年年度のハプニングは、北海道ドクターズゴルフ大会が旭川で開かれる予定が、七月十日参議院議員選挙日と重なって中止となったことで、非常にめずらしい記録であります。

昭和五十四年四月に医師会長が、佐藤先

生から原田一洋先生に変わったので、規約により当クラブ会長職もバトンタッチされました。

昭和五十六年四月の総会において、これまで会費とメンバー、問屋からの協賛金とでまかかってきた事業を、会費のみで行うことが決議され、すっきりとした形となりました。又、白鳥、伊達、登別で行われてきたコンペも白鳥コースだけにしぼられ、年六回となりました。第十四回ブロック対抗全道ドクターズゴルフ競技会が八月三十日輪厚コースで行われ、日胆室蘭チームは木戸実、遠藤、久安、安田、皆川和、森川、足永、畠山選手が出場し、二十九チーム中六位の好成績をおさめ、当クラブのレベルアップを証明しました。会員数は七十六名となりました。

昭和五十八年四月の総会で、ここ二年間のコンペの参加者が平均三十名と減ってきていることから、入賞者を五名から十名にふやすこと、表彰式での会食をオードブル形式から食券で好みの物をたべてもらうように変更することが決定されました。

昭和五十九年四月の総会では、当クラブ設立以来続いていた三師会（医師会、歯科医師会、薬剤師会）ゴルフ対抗戦を、三師会親睦ゴルフ大会に変更し、団体戦を取り止めて、個人戦のみとすることが議論され

ました。その理由は、三チームの参加人数に差があり過ぎて団体戦の形をなさないこととあります。今年からその方針で行うことになると思います。八月に入り道医師会から、昭和六十年第十九回北海道ドクターズゴルフ大会を、室蘭で引き受けるよう要請があり、諸般の状況から、引き受けざるを得ないことになりました。前回の経験があるとはいえ、大事業であります。しかし明年は当クラブ発足十五周年に当たりますので、記念事業の一環としても会員総力をもって成功させたいと念じております。この拙文がお目に止る頃には、大車輪でその準備に追われていることでしょう。

たかがゴルフとお考えの先生方もいらっしゃると思いますが、当医師会の親睦団体としては、最も活発に活動をしている団体であります。最近の暗い医師受難の世相の中で、心を痛めているばかりが能ではありません。夢中になってボールと格闘したり、普段顔を合わせることの少ない先生と談笑したり、緑の芝生を歩きながらの四時間のドラマを満喫してみませんか。御入会をお待ちしています。

（昭和五十九年八月 記）

^^ 旅行記 ^^

59・6・23〜24



斉藤修弥

□ ユーホーサルーンカー

晴天に恵まれた6月23日(土)、59年度親交会旅行は午後1時市役所前を予定通りスタートしました。今回の参加者は35名でほぼ例年通りの人数ですが、ゴルフバックを省いたため比較的若い先生方の参加が少なくないように感じられました。しかしながら母恋・輪西・グリーンホテル前など乗車予定地には各先生方が時間前より待っておりこの旅行にかける意気込みが盛んであるという印象を受けました。最終乗車予定地幌別駅前で全員が合流した後、大岩部長から今回の旅行全般について説明が行なわれました。次いで添乗員・運転手・バスガイド・旅行幹事などの紹介がすむや否や、先生方の強い要望によってビール、水割りなどの車内サービスが早くも始まりました。

今回の旅行の目玉行事の一つはデラックスバスを利用した事です。道南バスに二台しか無いという「ユーホーサルーンカー」をようやく一年がかりでチャーターし、この日に備えました。二階建バスかと思われる位の大きさに先生方はまずびっくりした

様子で、中に入ると応接間風のサルーン、シャンデリヤなどとてもバスとは思えない設備に二度驚き、思い思いの座席を選んで楽しまれていました。バスが走っていくと道行く人は立ち止まり、信号待ちしていると他の観光バスの人が物珍らしそうに窓を開けてこちらに見入っていました。白老から高速道路に入って約30分、苫小牧西インター付近で小休止となりました。自家用車で始んだの先生がたが通過している処なので初めて見る整備された花壇や、くつきりとそびえる樽前山に見入っていました。身心ともにスッキリとした諸先生を乗せて車が再び走り出すと、車内はいよいよ本格的宴会の雰囲気となってきました。

□ 野幌森林公園

約2時間の高速道路の旅を楽しんだ後、バスは最初の目的地野幌森林公園に到着しました。この公園は昭和43年5月に道立自然公園として指定されたものですが、開拓記念館や百年記念塔などが有名で何人かの先生方から見学の要望が強かったものの一つです。当日は生憎到着時刻が少し遅れた為、森林公園には入れず百年記念塔だけ見学することになりました。長時間の車の旅から降りて心地よい風が吹くなか、緑鮮や

かな森の散策はまことに気持ちのよいもので、記念写真を撮った後、先生方の中から小樽博見学を中止して、明日もここに来ようという冗談が出る位素晴らしい公園でした。記念塔は見上げると高さが百米もある鋼板張りの立派な作品で、先人への感謝と将来に向ってたくましく伸びようとする意志を表わすということでした。

□ 札幌ビール園―ホテル―ミカド

名残りは尽きませんでした。再びバスに乗り込み約30分で第2の目的地札幌ビール園に到着しました。ここは大型バスがひっきりなしに発着しまるで都心部を思わせる程の人混みでびっくりしましたが、用意されていた別館で原田会長の音頭によりビールパーティが賑やかに始まったのは午後5時半ごろであったと思います。天気は良くバスのパーティの盛上りをそのまま持ち込んだ結果、ビールのジョッキや成吉思汗鍋の材料が次々と空になり諸先生の旺盛な食欲には些かびっくりする程でした。楽しいビールパーティを約一時間半で打ち上げ午後七時に宿舎のホテルニューオオタニに到着しました。部屋割りのあと原則として明朝まで自由行動ということになっていましたが、夜のすすきのに馴染みのうすい先

生方の要望もあったため、急拠幹事が二次会を「ミカド」にセットした結果約20名の先生方が参加されました。くり出した時間が良かったのかサービスク金の割には美人が多数席に来て、洒落たステージとあいまって都会の雰囲気を充分に楽しませてくれました。これ以後の動向については個人のプライバシーに関係しますので割愛いたします。

□ 小樽博覧会―北一ガラス

翌朝は午前9時にホテルを出発しました。この日も素晴らしい青空に恵まれ、車内は昨夜の経験談も加わって昨日より一層賑やかになりました。一路小樽博へと向かいました。すすきの夜風に吹かれると早朝の起床が難かしく脱落する先生が多いのではないかと幹事は予測していたのですが、この予想は見事に外れ止むを得ない事情の先生以外27名全員が乗車していました。小樽博見学は予定通り10時から始まりました。時間が比較的早かったせいか会場の人混みはまずまずで雄大なテーマ館にはじまりおたるコネクション・ポートバザール・エレクトロニクスワールドなど如何にも海をテーマとした小樽らしい祭典に諸先生方もすっかり満足された様子で、予定された一時間半があっとい

う間に過ぎてしまいました。11時半からは最終見学コースの北一ガラスに立ち寄りしました。ここは伝統あるガラス工芸店ですが制作のデモンストレーションが呼び物となっており、多数の観光客が詰めかけていました。薄暗い採光の中でゆったりとした雰囲気であり、ひととき現代を離れたロマンチックの世界へ私達を案内してくれるような感じがしました。

盛沢山な見学で空腹となった先生方は、北海ホテル地下の和風料理屋に着くと直ちにビール・酒で喉をうるおし、美味しい弁当を食べながら話がはずんで昼食休憩の時間はまたたく間に過ぎてしまいました。

□ 帰 路

帰路のバスはますます賑やかで早速カラオケ大会が始まり、参加者には豪華な景品が次々に渡されました。一方、昼食時のビールがきいた為か、稲穂峠の絶景の為か一時停車を希望する先生が相次ぎ、各所で旅の最後を楽しむ風景が続出しました。

洞爺湖畔の見える頃から例年通り来年のコース選定が話題となり、車内の先生方の大方の希望を大岩先生がまとめられ、来年は函館方面に行きたいという提案が示され

先生方の承認が得られました。また今年の反省に鑑み、来年は再びゴルフバックを取り入れ観光とゴルフの二本立てを採用しようという意見が出されました。旅の終りは時間の経過が早く、これらの意見が出されているうちにバスはもう白鳥台に達し、夕日に輝く室蘭の町並へ優雅な車体がすべりこんでいきました。今回の旅行を省りみて天候に恵まれたことから参加された先生方に比較的良好な評価を下して戴いたのに勇気づき、幹事一同来年は更に内容を充実し楽しいものにと考えておりますので来年もどうぞ多数御参加のほど宜しくお願いいたします。

小樽博覧会見聞記

黒 光 康 夫

今年の親交会旅行会は札幌泊、翌日小樽博覧会と決まった。

六月二十三日札幌ニューオータニホテル宿泊、翌二十四日七時起床、窓のカーテンを開けると雲一つない快晴の空が眩しい。

バスは九時過ぎホテルを出発して札幌高速自動車道に入る。やがて高速道の終点に

近く右眼下に小樽博覧会場の全景が見えてきた。十時十分バスは駐車場に到着。

時間が無いので勝納会場のみ見学する事になり色内会場には行かないと云う連絡がある。早速博覧会場に入場する。

昭和六十年に開基百二十年を迎える小樽市はロマンの香り高く、歴史と文化の重みを十分に備え、産業経済の活性化と観光の再開発を目指してこの博覧会を開催する事にしたという話だ。

会場には既に相当の人数が入っている。入って直ぐ正面にテーマ館の巨大な貝形のシアターが来場客を迎える。西独のデザイン、ルイジコラーニのデザインによるもので、内面が鏡張りになっていて巨大な小樽博のシンボルマークが映し出される。貝の口が開くと同時にテーマ音楽が高らかに流れ、噴水の乱舞それに赤黄緑の照明が加わり暫くの間それに見とれる。やがて貝の口が静かに閉じる。

隣りがおたるコネクション会場で三角形の木製の建物が六戸放射状に並んでいる。その中のルートナホトカ館に入る。ナホト

カ市の紹介、シベリアの特産品、毛皮の生活用品等が豊富に展示されていた。次にダニーデン館に入る。ニュージージランドのダニーデン市の紹介、羊毛を中心とした特産品が展示してあった。両市とも小樽の姉妹

都市である。

未来の情報通信のあり方を披露したコミュニケーション館では通信衛星、光ファイバーケーブル、海底ケーブル等の通信の説明や衛星放送、文字放送、緊急警報放送、高品位テレビ放送など放送のニューメディア、パソコンプラザ等、興味のある最新の技術を結集した展示品を見る。

エレクトロワールドではジャンボなロボット獅子舞や、振子の原理を利用して図形を描いたりのエレクトロ技術を紹介していた。

くらしの百科館では九面マルチスクリーン劇場に入る。三百六十度の超パノラマ映像が周囲をぐるりと取り巻く。北海道を舞台に卵を産む鮭、羽根を休める白鳥の群アフリカのサバンナでライオン・バッファロー・象・フラミンゴ・河馬等、野生の動物の繰り広げる躍動が自分を中心に展開していく様でダイナミックに楽しかった。

新交通博物館では、陸海空は勿論宇宙に至るまで、明日の北海道の交通網、SLからリニアモーターカーのミニチュアや最新鋭の自動車、モーターボート等が展示され若者や子供連れに人気があるのか満員の有様で、その上テント張りなので猛烈に暑い。ポートバザール館ではガラス工芸品、木工品、民芸品、海産物加工品等が揃ってい

た様だが時間がなく割愛する。

広場の半分を占めるプレイランドでは、スピードと恐怖の宙返り、なんと云っても人気のスタンディングコースター、振子の様に大きく揺れるグレートポセイドン、高さ約五十米の頂上から小樽市を一望出来る大観覧車があり、子供連れの客や若者達で賑わっている。それをバスの車窓から遠望し乍ら座席でホッと一休み、やがて全員一時間半の慌ただしい走り歩きの観覧を終え、次の目的地のガラス工場へ向けバスは会場を出発した。

あどけない話

大 岩 昌 生

野幌の森林公園に到着したのは、午後四時過ぎでした。開拓村の閉館時間が迫っていましたので、入村を諦め、周囲の散策にとどめました。が、百年塔のあたりは、広大な芝生で周りを原始林でかこまれ、緑が一層美しく眺められました。

「さて、そろそろ集合時間ですよ。S先生」

「そうだな、俺達の車はどれだろう」

バス駐車場には、大小色とりどりの車が数十台止まっています。

「決っていますよ。一番大きくてデラックスなやつさ。何しろ、ユーホー・サルーン・カードだからね」

私達の隣についていたのは、可成り大型ですが、一段階格下です。

「やっぱり我々のは最高だね。隣の車が小さく見える」

隣の車の客の耳に入ったらしい。

「君達、なに威張っているのさ。自分のものでもないだろうに」

すかさずS先生、

「なっ！ 借家だってデラックスの方が良いに決ってるさ」

隣の車の客、無言、くしゅん。

小樽会場は、表から見るとかなりの広さであった。各パビリオンを廻って、特産品売場へ入った頃は、足が重くなって来たが適当な休憩場が見当らない。もう一つ頑張ってお土産でも買うか、店の売り込みは凄まじいばかりである。普通なら品物の向う側で、「いらっしやい。いらっしやい」とやるんだらうが、ここは、店員が皆んな店の前に出て来て、手を引き体をかかえ込まんばかりの熱心さである。それでもいやらしさを感じさせないのが、名だたる小樽

商人の伝統と熟達さであろうか、名人芸の売り込みにつられて、財布がしばむ程に買物袋が満杯になってしまった。

家に帰ってお土産を整理すると、どうも買った覚えのない物が一個入っていた。ちゃんと包装してあったから、指を曲げたものでない事は確かだが、サービス品としてくれた物であろうか。それとも誰かの買物と間違っって私の袋に入れたのだろうか！。コンプ巻の詰合せ、どなたかの買物でしたらお申し越し下さい。

車内では、余興のカラオケ大会やクイズで騒いでいるうちに、予定していた「俱知安のトイレタイム」を忘れて通過してしまいました。羊蹄山の裾野に近づいた頃、誰かが「小便だ！」と言い出したら、次々と申込みが出て、遂に野路で臨時停車する事になりました。山を眺めながらの青しょんも味なものです。わざわざ島の中まで入って行ったのは、かなり銘酩したA先生です見れば、白菜の苗の頭から悪水をふりかけているのです。車窓から見ていた私は、心配になってマイクを取りました。

「あの白菜は、来月頃室蘭の市場に出荷されて、皆さんのお口に入るかもしれません。悪い味がしたら、A先生のしょんべんですよ。この地方の農協産のマークにはご注意のほどを！」

車内より声あり。

「心配ご無用。あの白菜育つわけないよ
○○チャンの毒水で立ち所に枯れること受けあいだ。ほれほれもうしおれて来た！」

札幌の夜〃触れあいと 語らいを求めて〃

三村 博 通

札幌の夜、日本経済高度成長とともに、爆発的に成長を遂げた百五十万都市の夜、そこに繰り上げられている人生模様は空々しい冷たさもあり、又一方、人との触れ易い出会いの多い場所でもある。しかし、そこに生きている人々でも、そこを徘徊する放浪者でも、もし語らいと触れ合いがないとしたら、きつと心は氷の様に固ってしまふであらう。

札幌の灯はいつまでも消えることなく、短かい時間ではあったけれど、医師親交会旅行として出席なさった諸先生との語らいと触れ合いが、この上もない救いであり、楽しい一時を過したのです。札幌の薄暮の町に乗りこんだ私達一行は、札幌ビール園で夕食をとり、ホテル到着後はミカドへと、美女が繰りひろげる舞台の踊りと音

楽の中に、華やかな数刻を送ったのであった。

その後は、それぞれに自由な時間を求めてあちこちの場所に散って行ったのですが、私もH・M・S先生と共に徘徊と放浪を試みました。何軒かの中で目指して行った、「ブスツ子」というギャル・スナックのドアの前に、驚いたことには三列に並んだ男性が二〇〇三〇名、店の椅子が開くのを待っているとは！札幌の夜は、いつまでも終りのない夜、溢れていている人の波はどこへ向って行くのか、私達もその人の波に乗って酔いに任せ歩き続けた。

(二日酔いをして、翌日の小樽博行きをとりやめになされた先生がおられたとか)

以下は、札幌の夜の一隅で女性と交わした他愛ない会話を思い出して綴ってみました。

「わたしって水商売が合うんだよね。なんかさ！あこがれちゃんだよね。美しい髪をして綺麗な服着てさ、なんかさ、私に合うんだよね。スナックもいいし、クラブもいいしさ、トルコってちょっと抵抗あるじゃない、でもどんだんお客が指名してくれてさ、私って水商売合っているみたい。そして、どんだんお金が入るじゃん！、お金？、お金ってよりさ、そんな仕事が好きなんだね、男の人ってさ、私のすべてがいいってさ！やっぱりトルコに行くかな」

(年令19才程度、美女程度65、知能程度低い、低能美女か！因みに昔の遊郭の女性の三割は境界型精薄であったとか)

「私大阪から彼を追って来たんじゃない。彼さ！お店の支配人よ。私はトルコに働いているんだけど、今日スナックで飲んでるの。アルバイトしているの。彼のお店では働けないの、事情があつてさ、トルコのお客取ってもさ、やっぱり彼という時が一番いいのよ！」(年令21才程度、大阪弁なまり、若いというだけで他に取り得がない)

「今日は本当に有難度う御座いました。私、お店をしてから16年になります。今夜はこんなにお客がいらして来て下さって、不思議な夜ですわ！嬉しいわ！お金が数え切れない位入って、売上一〇〇万位かしら今日は計算が大変よ。嬉しいわ！又いらして下さいね」

(年令32〜36才忍耐強い芯のあると思われる、美女程度平均)

「私ってさ、○○を使うとき、皮フ炎起してしまうの。やっぱり普通がいいです」

(32才の女性、美女程度は群をぬいている)

「私ってお店をして八年になるんです。今は母と二人暮らし母は87才、姉達は皆結婚していらんです。私は32才、九年前に離婚してそれから一人、妻子のある人を愛し

ているフリーっていう存在よ！今はこの仕事が好きになりました。宜しくね！」

(スタイルも良い、性格も棘がない)

「男の人をみたら、お金の固まりと思いなさい！洋服をぬがせると同じに一枚一枚剥いで、裸にしてみましょうと同じに、お金を出させる様にと努めなさいと言われてるんです。今日の方々は、きっとお金の固まりよ！」(諸先生の集団をみつめながら)

きっと、そうみたいだわ、あのロマンス・グレーの方、特にそうみたいだわ、なんとなくわかるわ！」

(獲物をねらっている女性、35才程度プロポーション平均より上)

「男の人って、どんな人をみても子供みたいでかわいいわ！どんなに年をめた方でも頭のはげている方でも、なんとなくわいいわ！ちょっと無理を言っても結局言う通りになってくれるわ。ちょっと馬鹿みたいな人もいるけどさ！」

(25才程度 瞳を輝かせ極めて現実的な女性)

「私、室蘭から来ているんですよ。懐しいわ！室蘭の人ってやさしい人多いわ！札幌の人よりも財布の紐すぐ解いてくれるわ！やっぱり通じているのかな。室蘭の人って純情な人多いんだよね。お年をめした方は特にそうだわ！」

(ご用心！あるスナックの女性 偶然の出会い、美女程度普通)

たわいのない会話の中に、私は札幌に生きる現代女性の逞しい考え方に触れた。なにか、彼女らとの佻しい空虚な対話に、ああそうか、ああそうかと頷いているだけでした。やはり日頃お会いしている諸先生方の対話には重みを感じたし、久しぶりの札幌の夜を送って、語らい、触れ合いに満足して旅行の楽しさを知ったものでした。また来年も一人でも多くこの旅行に参加なされて「語らい、触れ合い」楽しい一時を過ごしていただきたいと思います。

親交旅情

皆川英貞

原始林 蝦夷地の歴史 此処なれや

空にそびえる 記念塔シムボル 仰ぐ

札幌の 夜をたのしむ 一齣に
リーゼ車屋 忘れがたけれ

ナホトカの 写真なつかし ソ聯館
こけももジャムを 買ひ求めたり

真紅まづかなる 火の玉ガラス 細工せる
手造り現場 シカとながめき

同行に 奇人変人 野人あり
爆笑は絶えず バス旅行かな

蒼空に そよ吹く風に 若草に
いばり 尿する人 足は揺れおり

紅玉べにだまの 石碑の前に ひとやすみ
留寿都高原 そよ風かほる

編集後記

ニューメディアとかINSとかの論議が喧しい昨今ですが、ワープロの投稿も散見され、時の流れを感じます。

今回は原稿の集まりが順調で、頁数の都合もあり、シリーズ物の「大正っ子物語」、「かなり古いお話」、「チベット弥次旅行記」は次号に掲載させて頂きますので御了承下さい。また大辻先生の学術長論文が誌風(?)に鑑みて割愛せざるを得なかったのは誠に残念で申し訳なく思います。何等かの方法で公表されることを切望する次第です。

「主張」欄の〃心拍〃こそ生の証〃は正論か異論かは掘くとして、臓器移植に真正面から率直に取り組んだ迫力ある高橋哲学の展開で、斯界の反応や如何と固唾をのむ思いです。恒例の座談会は、当りさわりのある話を引き出す編集長の座談の妙よろしく時間を忘れさせる語らいでしたが、没にしたマル秘裏テープの方が断然面白いのですが、それにしても之を原稿にまとめあげる編集長の苦労は並大抵ではなく脱帽するほかはありません。続き物のゴルフ談議は益々佳境に入り、頭の悪いプロが書いた指導書は見るのもいやになります。毎号味わい深い好エッセイを寄せられる安斉先生のやさしい音楽講座—まこと知ることとは人生を楽しくするものデス。突貫レポート—による旅行記は、皆川御大の旅情豊かな歌でしめくくり、来年も是非行つてミヨ—!!という気分を起こさせ

ます。今に観光協会あたりから金一封が送られて来るのではありますまいか。

進んで投稿に応じられた先生方に、はた又っこい原稿依頼に堪えきれず寄稿された諸先生に厚く御礼申し上げます。

(村井 玄乙)

親交会誌

波 久 鳥

発行日 昭和五十九年十月二十五日
発行所 室蘭市医師親交会
印刷所 室蘭印刷株式会社

会 員 異 動 昭和58.9.~59.8.

月	日	事 由	氏 名	備 考
58. 11		入 会	塩 沢 英 光 先生	室蘭市東町2-4-6 東室蘭医院
58. 11		転 出	内 海 寿 彦 先生	白老町竹浦133番地 北海道リハビリテーションセンター
58. 12		入 会	森 田 益 丰 先生	室蘭市東町4-20-6 室蘭登別健診センター
59. 1		入 会	小 林 滋 宗 先生	室蘭市東町2-4-12 はらだ外科病院
59. 2		入 会	西 里 弘 二 先生	室蘭市高砂町2-31-19 西里内科循環器科医院
59. 3		転 出	南 邦 弘 先生	札幌市東区北17東15 札幌東豊病院
59. 3		転 出	野 村 靖 宏 先生	同 上 同 上